

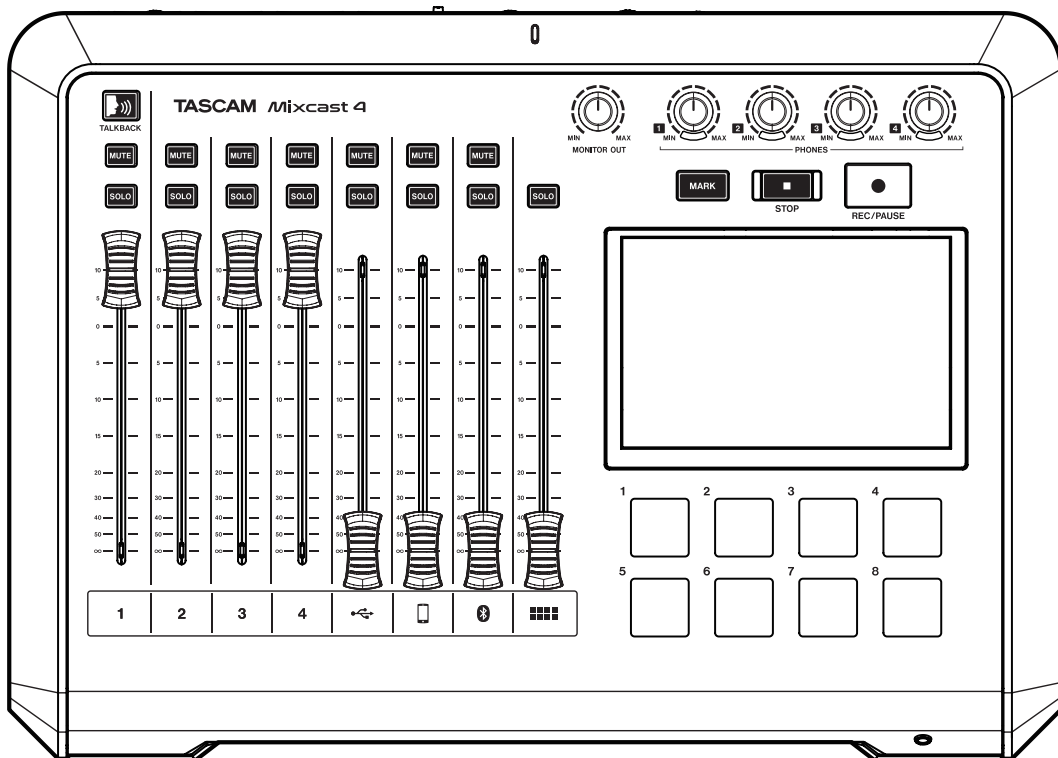
TASCAM

D01396901A

Mixcast 4

Podcast Recording Console

リファレンスマニュアル



目次

第 1 章 はじめに	3	第 8 章 タッチスクリーンの機能	28
本機の概要	3	各機能の説明	28
本書の表記	3	メニュー画面	28
商標および著作権に関して	3	[A] 入力選択	28
USB ケーブルについて	4	[B] 再生設定	34
電波について	4	[C] サウンドパッド設定	35
Bluetooth® について	4	[D] 本体設定	36
プロフィール	4	[E] SD 設定	38
コーデック	4	第 9 章 エラーメッセージ	39
コンテンツ保護	4	第 10 章 トラブルシューティング	40
通信セキュリティー	4	第 11 章 仕様 / 定格	42
SD カードについて	4	レコーダー部仕様	42
TASCAM ID の登録について	5	アナログオーディオ入力定格	42
第 2 章 各部の名称と働き	6	アナログオーディオ出力定格	42
トップパネル	6	コントロール入出力定格	42
リアパネル	7	オーディオ性能	42
ホーム画面	8	録音時間	42
第 3 章 準備	9	Bluetooth	43
接続する	9	動作条件	43
オーディオ機器を接続する	9	Windows	43
電源を接続する	10	Mac	43
電源をオンにする / オフにする	10	iOS/iPadOS デバイス	43
チュートリアルについて	10	Android デバイス	43
マイクを接続する	11	一般	43
ヘッドホンを接続する	11	寸法図	44
USB 接続する	12	ブロックダイアグラム	45
スマートフォン / メディアプレーヤーなどを接続する	12	レベルダイアグラム	46
録音機器やモニタースピーカーを接続する	12		
Bluetooth 機器と接続する	12		
SD カードの挿入 / 取り出し / ライトプロテクト	13		
第 4 章 入力設定について	14		
入力レベル / 音質や音声を調整する	14		
操作つまみやフェーダーの音量を下げる	14		
調整するマイクを選択する	14		
マイク入力のレベル調整	14		
マイク入力の音質調整 (ボイス設定)	14		
マイク入力の音声調整 (エフェクト設定)	16		
第 5 章 録音 / 再生する	18		
録音する	18		
録音中に効果音を挿入する	19		
録音中にマークポイントを登録する	19		
再生する	19		
ポッドキャスト名を修正する	20		
ポッドキャストを削除する	20		
再生中にマークポイントを登録する	20		
再生用拡張機能	21		
上書き録音する (オーバーライト録音)	22		
登録したマークポイントから上書き録音する	22		
TALKBACK 機能を使う	22		
第 6 章 TASCAM Podcast Editor を使用する	23		
Windows OS で使用する際のサウンド設定	23		
Mac OS で使用する場合 (オーディオ設定について)	23		
iOS/iPadOS/Android デバイスを使用する場合	23		
USB に出力されるデータ	23		
第 7 章 サウンドパッドを使用する	24		
サウンドパッドについて	24		
サウンドパッド画面の機能説明	24		
サウンドパッドを再生する	25		
サウンドパッドにエフェクトを登録する	25		
サウンドパッドのエフェクト機能を削除する	26		
サウンドパッドに録音して登録する	26		

本機の概要

- 最大4話者までの対応可能なポッドキャスト制作、配信対応ミキサー
- 4マイク入力 - TRS/XLR コンボジャックを装備
- 独立ファントム電源のオン/オフを設定可能
- 最大14トラックまでSDカードに直接マルチトラック録音が可能
- 14イン/2アウトのUSB オーディオインターフェース機能搭載
- 4系統独立ボリューム付きヘッドホン出力端子を装備
- トータル出力レベルを一定に保ち、歪み無く音量を整えるオートミキサー機能搭載
- Bluetooth 接続で通話音声もワイヤレスで録音可能
- 押しやすい大型自照式サウンドパッドボタンを8個装備 (プリセット1バンク、8バンクまで登録可能)
- 直観的な簡単操作を可能にする5インチカラータッチスクリーンを搭載
- 作業工程全てをカバーする無償ソフト、「TASCAM Podcast Editor」をバンドル

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 「SD/SDHC/SDXC メモリーカード」のことを「SDカード」と表記します。
- 本機と Bluetooth で接続するパソコンやポータブルオーディオ機器などを「Bluetooth 機器」と表記します。
- 本書の「iOS」の表記には、「iOS」および「iPadOS」を含んで表記しています。
- タッチスクリーン上に表示される文字を「OK」のように表記します。
- タッチスクリーンの操作について、画面のアイコンを指で触れる動作を「タップ」、画面を左右に移動する動作を「スワイプ」と表記します。
- 専用ソフトウェアとは、「TASCAM Podcast Editor」を示します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機を、このように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などをします。

注意

指示を守らないと、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

⚠ 注意

指示を守らないと、人がけがをする可能性がある場合に記載します。

商標および著作権に関して

- TASCAM およびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- SDXC ロゴは、SD-3C, LLC の商標です。



- Bluetooth® ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. の所有物であり、ティアック株式会社は許可を受けて使用しています。
- Microsoft、Windows および Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- Apple、Mac、macOS、App Store および iTunes は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
- Apple、Mac、macOS、iOS、iPad、iPadOS および iTunes は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。iPhone の商標は、アイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。
- Lightning は、Apple Inc. の商標です。
- App Store は、Apple Inc. のサービスマークです。
- IOS は、米国および他の国々における Cisco 社の商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- Android、Google Play は、Google Inc. の商標または登録商標です。
- ASIO は、Steinberg Media Technologies GmbH の商標およびソフトウェアです。



- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

ここに記載されております製品に関する情報、諸データは、あくまで一例を示すものであり、これらに関します第三者の知的財産権、およびその他の権利に対して、権利侵害がないことの保証を示すものではありません。したがって、上記第三者の知的財産権の侵害の責任、またはこれらの製品の使用により発生する責任につきましては、弊社はその責を負いかねますのでご了承ください。

第三者の著作物は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。装置の適正使用をお願いします。弊社では、お客様による権利侵害行為につき一切の責任を負担致しません。

第1章 はじめに

USB ケーブルについて

本機は、USB Type-C 端子を装備しています。パソコンやスマートフォンを本機と接続する際、本機付属の USB ケーブル (Type-C - Type-C) をご使用ください。

なお、接続するパソコンやスマートフォンの USB 端子が、Type-C と異なる場合、別途 USB ケーブルを用意する必要があります。

- **Lightning 端子を搭載する iOS デバイスと接続する**
Apple 純正の Lightning - USB カメラアダプタ、および市販の Type-A - Type-C ケーブルが必要です。
- **USB micro-B 端子を搭載するパソコンやスマートフォン (OTG 対応) と接続する**
micro-B - Type-C ケーブル (USB OTG 対応) が必要です。
- **USB Type-A 端子を搭載するパソコンと接続する**
市販の Type-A - Type-C ケーブルが必要です。

電波について

- 本機は電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として技術基準適合証明を受けています。したがって、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。ただし、以下の事項を行うと、法律で罰せられることがあります。
 - 分解 / 改造すること
 - 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと



本機は、2.4 GHz 帯を使用します。変調方式として FH-SS 変調方式を採用し与干渉距離は 10m です。本製品は、日本国内でのみご使用ください。

- 本機は電波を使用しているため、第三者が故意または偶然に傍受することが考えられます。重要な通信や人命にかかわる通信には使用しないでください。通信時に、データや情報の漏洩が発生しても責任を負いかねます。予めご了承ください。
- 次の場所では本機を使用しないでください。
 - 2.4 GHz 用周波数帯域を利用する、無線 LAN、電子レンジ、デジタルコードレス電話の近く。電波が干渉して音が途切れることがあります。
 - ラジオ、テレビ、ビデオ機器、BS/CS チューナーなどのアンテナ入力端子を持つ AV 機器の近く。音声や映像にノイズがのることがあります。

本機使用上の注意

本機の使用周波数は 2.4 GHz 帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、免許を要する工場の製造ラインで使用されている移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局や免許を要するアマチュア無線局などが運用されています。

他の機器との干渉を防止するために、以下の点に十分ご注意ください。

- 本機を使用する前に、近くで他の無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、本機と他の無線局との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、使用を停止してください。
- 不明な点その他にお困りのことが起きたときは、お買い上げの販売店またはタスカム カスタマーサポート (巻末に記載) へお問い合わせください。

Bluetooth® について

本機は、Bluetooth 音声モジュールを搭載しており、Bluetooth (A2DP) に対応したパソコンやポータブルオーディオ機器 (Bluetooth 機器) の再生音声を入力できます。

注意

本機の Bluetooth 機能について、全ての Bluetooth 機器との接続や動作を保証するものではありません。

プロファイル

本機は、以下の Bluetooth プロファイルに対応しています。

- A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)
- Bluetooth で音声伝送を行うには、Bluetooth 機器が A2DP に対応している必要があります。ただし、同じプロファイルに対応していても、Bluetooth 機器の仕様により、機能が異なる場合があります。

コーデック

本機は、以下のコーデックに対応しており、音声伝送時にいずれかのコーデックを自動選択します。

- SBC
- AAC

使用するコーデックは、Bluetooth 機器のコーデック対応や通信状況に応じて適切に選択されます。

メモ

- 使用するコーデックは、ボタン操作などで選択することはできません。
- Bluetooth 無線技術の特性により、Bluetooth 再生機器に比べて本機側での再生がわずかに遅れます。

コンテンツ保護

本機は、音声伝送時のコンテンツ保護として SCMS-T に対応しており、保護された音声を再生できます。

通信セキュリティ

本機は、Bluetooth 通信で Bluetooth の標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応していますが、通信の秘匿性を保障するものではありません。

Bluetooth 通信で情報の漏洩が発生しましても、弊社は一切の責任を負いかねます。

SD カードについて

本機で録音、再生を行うために必要です。別途ご用意ください。使用できる SD カードは、Class 10 以上の SD/SDHC/SDXC 規格に対応した SD カードです。

本機にて動作が確認された SD カードのリストが、TASCAM のウェブサイト (<https://tascam.jp/jp/>) に掲載されています。

本機の製品ページをご参照ください。

もしくは、タスカム カスタマーサポートまでお問い合わせください。

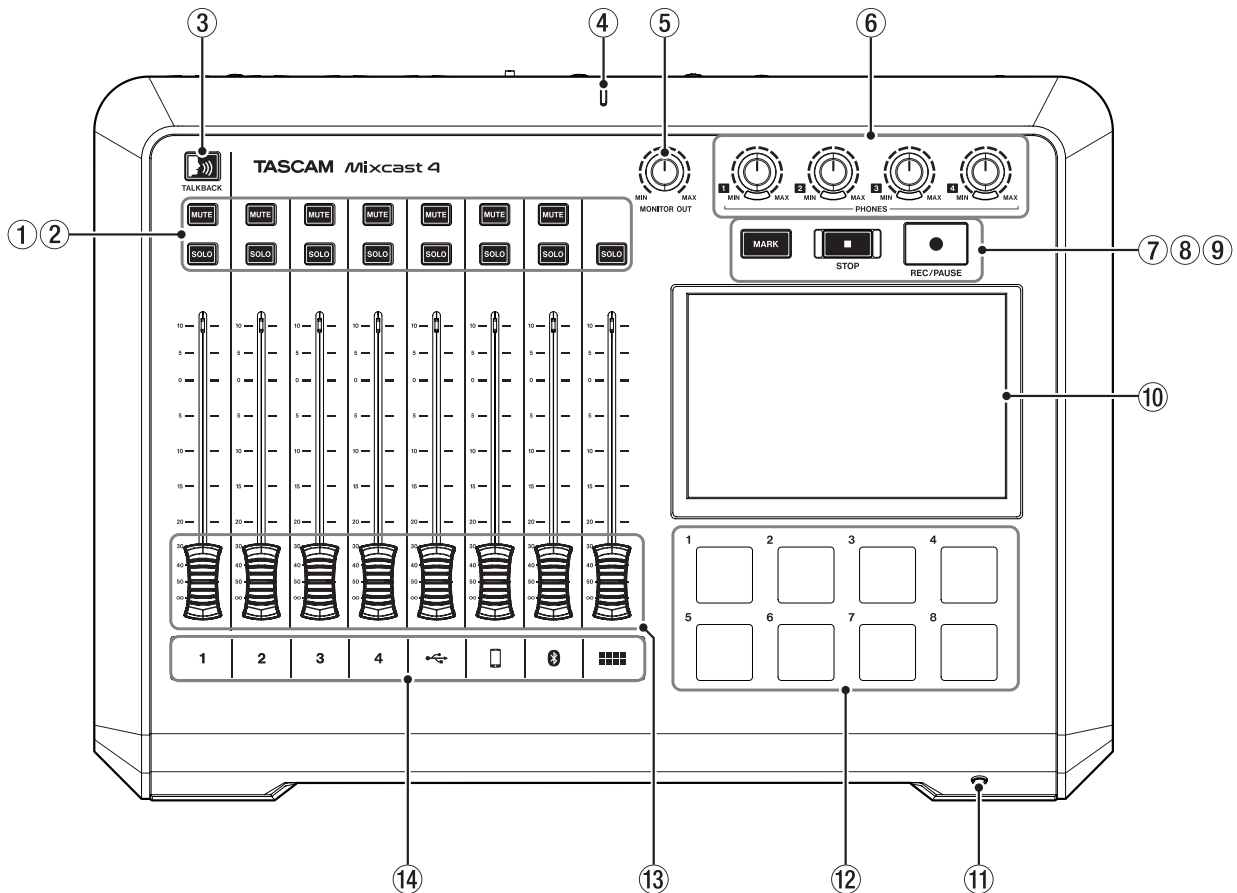
TASCAM ID の登録について

専用ソフトウェア「TASCAM Podcast Editor」をご使用になる場合、TASCAM のウェブサイトにて、アカウント登録をお願いいたします。

<https://tascamid.tascam.jp/jp/login/>

第2章 各部の名称と働き

トップパネル



① MUTE ボタン

いずれかの MUTE ボタンを押すと、そのボタンに対応する入力チャンネル信号をミュート (消音) します。

- オンのときは、赤く点灯します。

② SOLO ボタン

いずれかの SOLO ボタンを押すと、そのボタンに対応する入力チャンネルの音のみが、リアパネルの PHONES1 端子 (⑫)、およびフロントパネルの PHONES (TRRS) ① 端子 (⑪) から確認できます。(録音には影響しません。)

- オンのときは、青く点灯します。

③ TALKBACK ボタン

このボタンを押している間、MIC INPUT1 入力 (⑮) の音をリアパネルの PHONES ② - ④ 端子 (⑫) に出力します。(録音中の場合、この音声は録音されません。)

- ボタンを押している間、青く点灯します。

④ 録音インジケータ

- 録音中に赤く点灯します。

⑤ MONITOR OUT つまみ

リアパネルの MONITOR OUT 端子 (⑳) および LINE OUT 端子 (㉒) の出力レベルを調整します。

⑥ PHONES ① - ④ つまみ

リアパネルの PHONES ① - ④ 端子 (⑫) およびフロントパネルの PHONES (TRRS) ① 端子 (⑪) に接続したヘッドホンの出力レベルを調整します。

⑦ MARK ボタン

再生中や録音中、または一時停止中にこのボタンを押すと、その位置にマークポイントを登録します。

- 再生 / 録音中、または一時停止中および録音一時停止中は、青く点灯します。

⑧ STOP ボタン

再生 / 録音を停止します。

- 再生 / 録音中、または録音一時停止中は、オレンジに点灯

します。

⑨ REC/PAUSE ボタン

録音を開始します。また録音中は、一時停止します。

- 録音中に赤く点灯し、録音一時停止中は、赤く点滅します。

⑩ タッチスクリーン

入力信号レベルのモニターや、本機の動作状況を表示します。タッチ操作によって、各種設定が行えます。(28 ページ [第8章 タッチスクリーンの機能] を参照)

⑪ PHONES (TRRS) ① 端子 [CTIA 規格]

ヘッドセットなどを接続します。

メニュー設定でヘッドセットのマイク入力信号をチャンネル 1 の入力として設定することもできます。[CTIA 規格]

(11 ページ [ヘッドセットの接続 (Mic1 入力の切り換え)] を参照)

⑫ SOUND PAD ボタン (1-8)

このボタンを押すと、各ボタンに設定した効果音や BGM などが再生されます。また、専用ソフトウェアを使用して好みの音源を各ボタンに設定することもできます。

(24 ページ [サウンドパッドについて] を参照)

⑬ チャンネルフェーダー

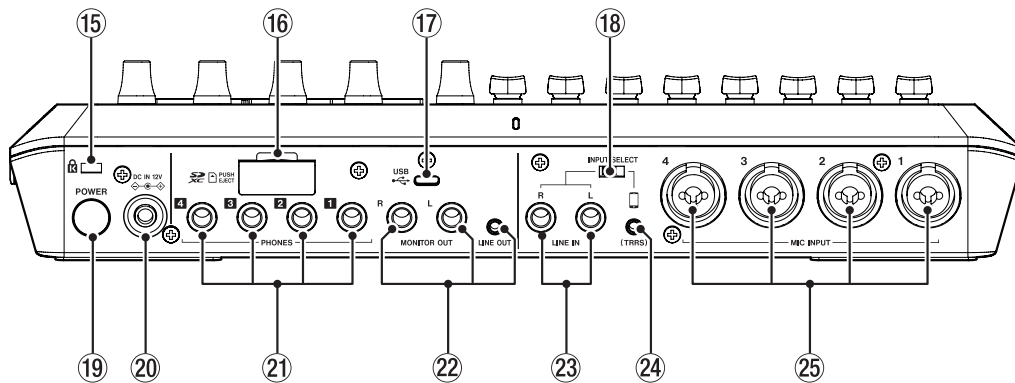
各チャンネル信号の送り出しレベルを調整します。

⑭ チャンネルインジケータ

- 入力のオーバーロードを検出した場合、チャンネル LED が赤く点灯します。(頻繁に点灯する場合は、入力レベルを調整してください。)

1/2/3/4	MIC INPUT 1-4 の入力信号
🔌	USB からの入力信号
📶	LINE IN L/R または LINE IN (TRRS) の入力信号
📶	Bluetooth からの入力信号
🔊	サウンドパッドの再生音

リアパネル



⑮ ケンジントンロック装着穴

⑯ SD カードスロット

SD カードを挿入するカードスロットです。
(13 ページ [SD カードをセットする] を参照)

⑰ USB 端子 (Type-C)

USB Type-C の USB ポートです。(USB2.0 に対応)
パソコンやスマートフォン・タブレット端末を接続します。
(12 ページ [USB 接続する] を参照)

⑱ INPUT SELECT スイッチ

LINE IN L/R 端子 (⑳) と LINE IN (TRRS) 端子 (㉔) の入力を切り換えます。

⑲ POWER ボタン

電源のオン/オフを行います。
(10 ページ [電源をオンにする / オフにする] を参照)

㉔ DC IN 12V 端子

付属の専用 AC アダプター (PS-P1220E NUT) を接続します。
(10 ページ [電源を接続する] を参照)

㉑ PHONES ① - ④ 端子

ヘッドホンを接続するためのφ 6.3mm ステレオ標準ジャックです。
ミニプラグのヘッドホンを接続する場合は、変換アダプター (φ 3.5mm ステレオミニジャック) をご使用ください。
(11 ページ [ヘッドホンを接続する] を参照)

⚠ 注意

ヘッドホンを接続する前には、PHONES ① - ④ つまみ (⑥) で、音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴覚障害などの原因となることがあります。

㉒ MONITOR OUT L/R 端子、LINE OUT 端子

モニタースピーカー (パワードモニタースピーカーまたはアンプ / スピーカーシステム) や、録音機器を接続します。
出力レベルは、トップパネルの MONITOR OUT つまみ (⑤) で、調整することができます。

- MONITOR OUT L/R 端子
コネクター: φ 6.3 mm (1/4") TRS 標準ジャック

- LINE OUT 端子
コネクター: φ 3.5mm (1/8") ステレオミニジャック
(12 ページ [録音機器やモニタースピーカーを接続する] を参照)

⚠ 注意

電源を入れる前やモニタースピーカーを接続する前に、トップパネルの MONITOR OUT つまみ (⑤) を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴覚障害などの原因となることがあります。


㉓ LINE IN L/R 端子

メディアプレーヤーなどのオーディオ機器を接続します。

- INPUT SELECT スイッチ (⑱) を「LINE IN」側にします。
コネクター: φ 6.3 mm (1/4") TRS 標準ジャック
(12 ページ [スマートフォン / メディアプレーヤーなどを接続する] を参照)

㉔ LINE IN (TRRS) 端子 [CTIA 規格]

スマートフォンなどの携帯機器を接続します。

- INPUT SELECT スイッチ (⑱) を  側にします。[CTIA 規格]
コネクター: φ 3.5 mm (1/8") 4 極ミニジャック
(12 ページ [スマートフォン / メディアプレーヤーなどを接続する] を参照)

㉕ MIC INPUT 1-4 端子

ダイナミックマイクやコンデンサーマイクを接続します。
(マイクの接続、およびマイクタイプの選択については、11 ページ [マイクを接続する]、28 ページ [① マイク設定] 参照してください。)

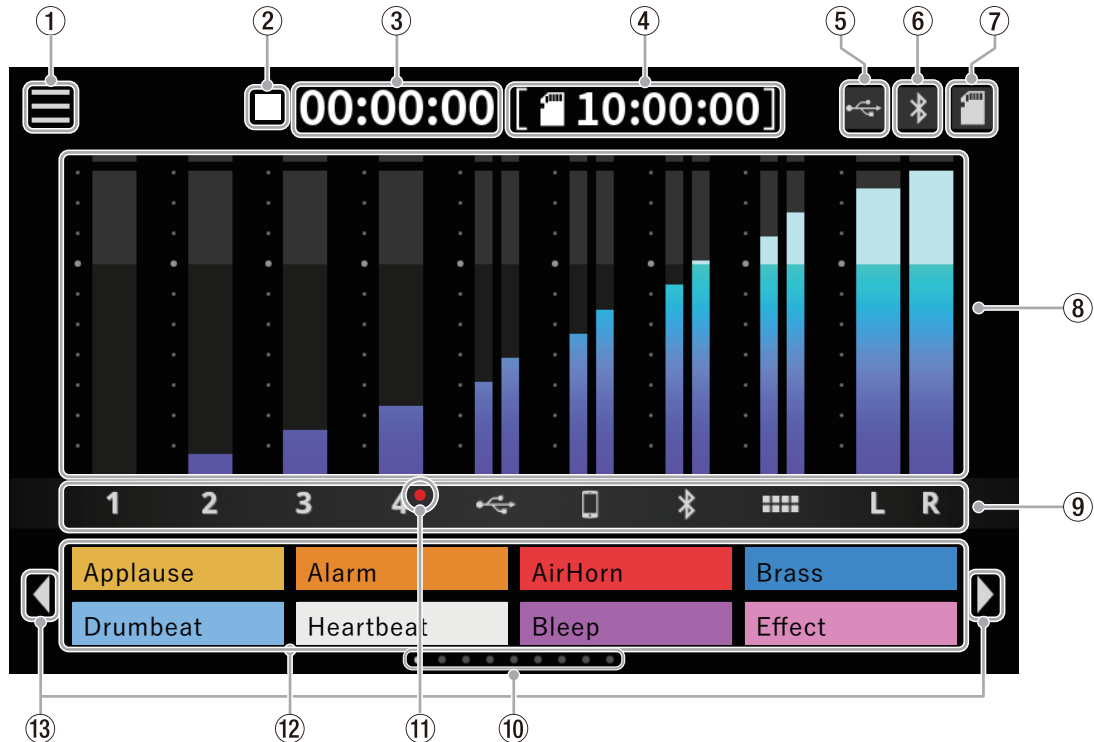
⚠ 注意

マイク設定で「コンデンサー」を選択した MIC INPUT 端子は、ファントム電源 (+48V) が有効になっているので、ダイナミックマイクを接続すると破損する可能性があります。マイクの接続時やマイクタイプの選択ときは、ご注意ください。

第2章 各部の名称と働き

ホーム画面

本機の電源をオンにしたときは、タッチスクリーンに下記のホーム画面を表示します。タッチスクリーンの操作は、基本的に画面のアイコンを指で触れたり（以降、タップ）、画面を左右に移動（以降、スワイプ）させたりして操作します。（指での反応が良くない場合、スマートフォンやタブレット端末用のタッチペンでも操作できます。）この画面では、入力信号のレベルをモニターする、または本機の動作状況を表示します。また、画面内のメニューアイコンをタップして、各機能の設定を行うことができます。



① メニューアイコン

このアイコンをタップするとメニュー画面を表示します。
(28 ページ [メニュー画面] を参照)

② レコーダーの状態表示

レコーダーの動作状況をアイコン表示します。

表示	内容
■	停止中
●	録音中
●	録音一時停止中

③ 録音カウンター表示

録音中に現在の経過時間（時：分：秒）を表示します。

④ SD カウンター表示

SD カードに録音できる残り時間（時：分：秒）を表示します。

⑤ USB 表示

本機が USB 接続されている間、アイコン を表示します。

⑥ Bluetooth 表示

Bluetooth 機器と接続されているときに、アイコン を表示します。ペアリング待機中は、アイコン が点滅します。

⑦ SD カード表示

SD カードが挿入されているときに、アイコン を表示します。

⑧ レベルメーター表示

各チャンネルのレベルを表示します。

- 1 - 4、, , , : 2MIX への送りレベル
- L・R : 2MIX のレベル

⑨ 入力チャンネルのラベル表示

ラベル表示	対応入力端子
1 - 4	MIC INPUT 1-4 端子
	USB 端子
	LINE IN (TRRS) 端子
	Bluetooth 入力
	SOUND PAD ボタン
L・R	2MIX

⑩ サウンドパッドのバンク表示

現在選択中のバンクの位置をハイライト表示します。

⑪ コンデンサー マイク選択表示

マイク設定で「コンデンサー」マイクを選択している場合、CH 番号の横に赤丸を表示します。

⑫ サウンドパッド表示

各サウンドパッド(*)に設定されている音源のファイル名やパッドの色を表示します。

音源の設定は、専用ソフトウェアを使用します。

(24 ページ [サウンドパッドについて] を参照)

* バンク 0 のサウンドパッドには、登録済み（内蔵音源）の効果音が設定されています。

⑬ サウンドパッドのバンク切り換えアイコン [◀/▶]

[◀] アイコンをタップして、サウンドパッドを前のバンクに切り換えます。[▶] アイコンをタップして、サウンドパッドを次のバンクに切り換えます。

接続する

オーディオ機器を接続する

以下に、本機の接続例を示します。

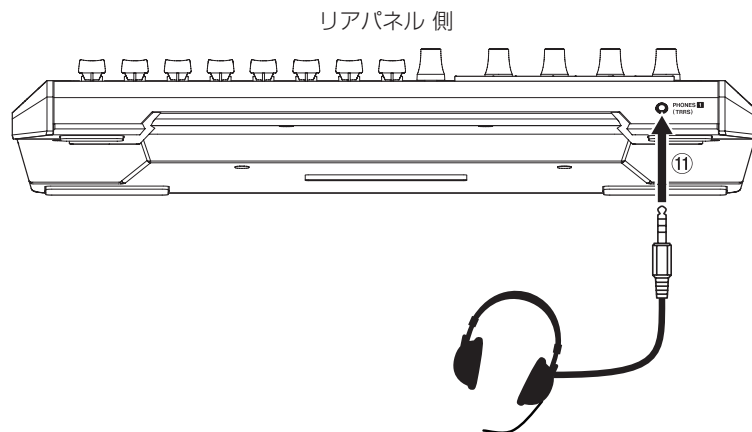
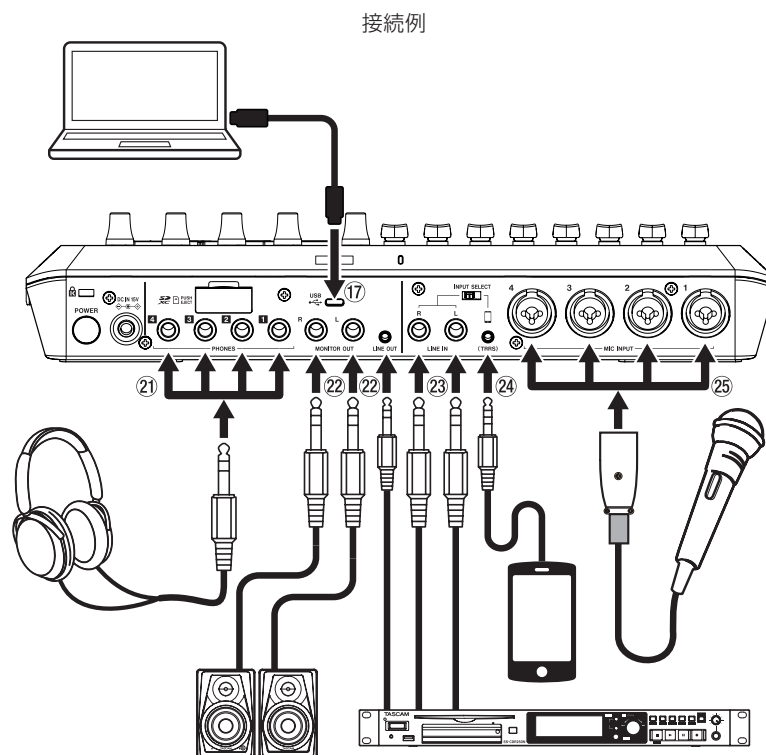
接続前の注意

- 接続を行う前に、外部機器の取扱説明書をよくお読みになり、正しく接続してください。
- 本機および接続する機器の電源を全てオフまたはスタンバイ状態にします。
- 各機器の電源は、同一の電源ラインから供給するように設置します。また、テーブルタップなどを使う場合は、電源電圧の変動が少なくなるように、電流容量が大きい太いケーブルをご使用ください。

⚠ 注意

電源をオンにする場合やオーディオ機器を接続する場合には、本機の以下の操作つまみやフェーダー、および接続する機器側の操作つまみやフェーダーを下げた状態で行ってください。モニター機器から突然大きな音が出て、機器の破損や聴覚障害の原因になる可能性があります。

- チャンネルフェーダー (13)、PHONES 1 - 4 つまみ (6)、MONITOR OUT つまみ (5)

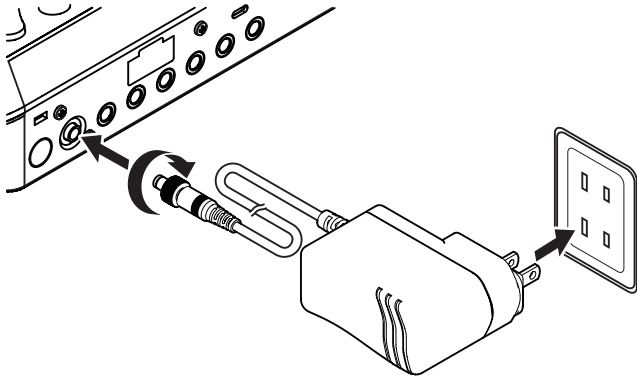


* 上図の①～⑫番号は、6ページ【トップパネル】、7ページ【リアパネル】を参照してください。

第3章 準備

電源を接続する

同梱されている付属の専用 AC アダプター (PS-P1220E NUT) を使用して、以下のように電源を本機に接続します。



1. AC アダプターの DC プラグを、本機のリアパネルにある DCIN 12V 端子 (20) に差し込みます。
2. DC プラグのナットを回して、DC IN 12V 端子に固定します。
3. AC アダプターをコンセントに接続します。

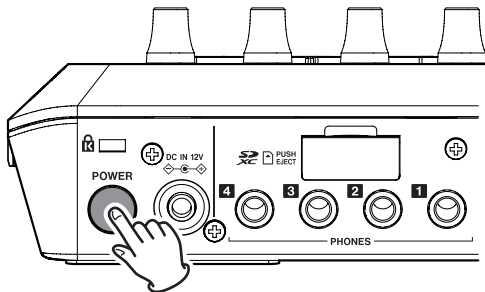
⚠ 注意

必ず、付属の専用 AC アダプターを接続してください。それ以外のものを使用すると故障、火災、感電の原因となります。

電源をオンにする / オフにする

電源をオンにする

1. 電源をオンにするには、背面の POWER ボタン (19) を押します。

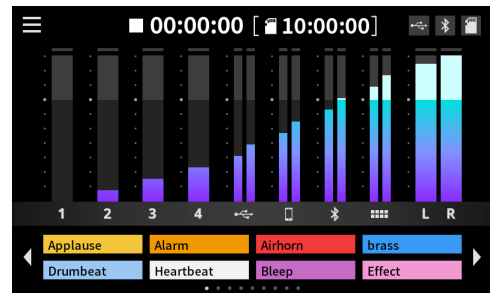


POWER ボタン (19)

メモ

お買い上げ後、はじめて電源をオンにしたときは、簡単に本機を説明するチュートリアルに続いて、言語と日時を設定するために、その他設定画面がタッチスクリーンに表示されます。(言語と日時の設定については、37 ページ [⑩ 日付 / 時間 設定] を参照)。

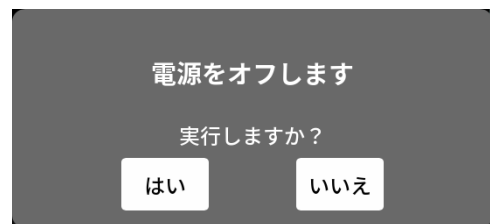
2. 起動が完了するとタッチスクリーンに下記のホーム画面が表示されます。



ホーム画面

電源をオフにする

電源をオフするには、背面の POWER ボタン (19) を押し続けます。タッチスクリーンに、電源オフの確認ポップアップメッセージが表示されたら、POWER ボタンを離します。



「はい」をタップするとシャットダウン動作を行い、電源をオフします。


メモ

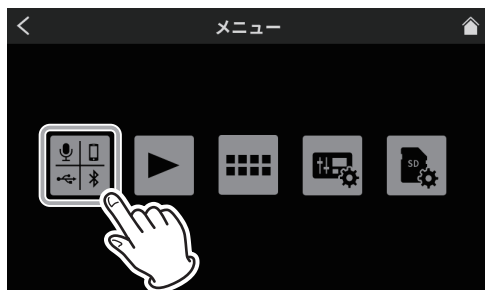
- 電源をオフする前の各種設定は、本体に保存されます。
- 本機は、自動的に電源がオフになるオートパワーオフ機能を備えています。
オートパワーオフ機能については、38 ページ [⑥ オートパワーオフ] を参照してください。

チュートリアルについて

- 電源をオンにすると、本機の操作を簡単に説明するチュートリアル画面が表示されます。
- チュートリアルが不要な場合は、表示内右上の「×」をタップして画面を閉じることができます。
- チュートリアル表示の最終画面で「Hide Tutorial(非表示)」のチェックボックスにチェックを入れると、次回以降表示(*)されません。
* 本機を工場出荷状態に戻すと、再びチュートリアルが表示されます。(工場出荷状態に戻すには、37 ページ [⑨ 初期化 (工場出荷設定)] を参照してください。)

マイクを接続する

1. マイクをリアパネルの MIC INPUT 1-4 端子に接続します。マイクを音源の方向へ向け、振動の少ない、安定した場所に設置してください。
2. マイクタイプの選択
タッチスクリーンのメニュー画面から入力アイコン  をタップし、入力画面を開きます。



メニュー画面

3. マイクアイコン  -  をタップして選択します。




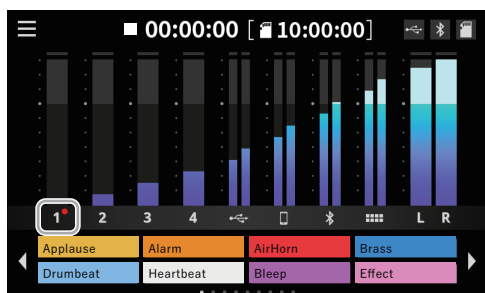
入力画面

4. 次に、レベル画面が開きますので、「コンデンサー」または「ダイナミック (初期値)」ボタンをタップして、マイクタイプを選択してください。
(下図は、例として「Mic1」を表示しています。)



レベル画面 (例: MIC INPUT 1)

マイクタイプの選択完了後、右上のホームアイコン  をタップして、ホーム画面に戻ります。
マイク設定で「コンデンサー」を選択した場合、ホーム画面のマイク CH 番号の横に赤丸を表示します。



ホーム画面

⚠ 注意

- プラグインパワー対応のマイクは、接続しないでください。破損する可能性があります。
- マイク設定で「コンデンサー」を選択した MIC INPUT 端子は、ファントム電源 (+48V) が有効になっているので、ダイナミックマイクを接続すると破損する可能性があります。マイクの接続時やマイクタイプの選択時は、ご注意ください。
- 「コンデンサー」を選択した場合、本機の次回起動時に下記メッセージを表示します。



「はい」をタップすると、「コンデンサー」に設定されたマイク入りにファントム電源 (+48V) が供給されます。

「いいえ」をタップすると、全てのマイク入力が「ダイナミック」に変更されます。

ヘッドホンを接続する

ヘッドホンは、リアパネルの PHONES 1 - 4 端子 (21) に接続します。

⚠ 注意

ヘッドホンを接続する前には、トップパネルの PHONES 1 - 4 つまみ (6) で、音量を最小にしてください。ヘッドホンから、突然大きな音が出て、聴覚障害などの原因となることがあります。

ヘッドセットの接続 (Mic1 入力の切り換え)

ヘッドセットは、フロントパネルの PHONES (TRRS) 1 端子 (11) に接続します。

⚠ 注意

ヘッドセットを接続する前には、トップパネルの PHONES 1 つまみ (6) を最小にしてから接続してください。

ヘッドセットのスピーカーから突然大きな音が出て、聴覚障害などの原因となることがあります。

ヘッドセットのマイクを使用する

ヘッドセットのマイク入力をチャンネル1として使用する場合、Mic1 のレベル画面で、入力設定を「前面」に切り換えてください。



レベル画面 (MIC INPUT 1)


- リアパネルの MIC INPUT 1 端子 (25) を使用する場合は、「MIC INPUT1」の入力設定を「背面 (初期値)」に切り換えてください。

メモ

PHONES 1 端子 (21) と PHONES (TRRS) 1 端子 (11) を同時に使用すると出力音量が小さくなる場合があります。

USB 接続する

本機をパソコンやスマートフォン・タブレット端末と USB 接続することで、以下のことが行えます。

- 本機の SD カードを USB マスストレージとして使用できます。
 - USB オーディオ機器として音声の入出力が行えます。
1. 付属の USB ケーブルを本機のリアパネルの USB 端子 (17) に差し込み、パソコンやスマートフォン・タブレット端末と接続します。
 2. 本機が USB 接続を認識すると、タッチスクリーンのホーム画面右上に USB アイコン  を表示します。

メモ

スマートフォン・タブレット端末やパソコンとの接続は、付属の USB ケーブル (*) を使用して、USB ハブを経由せずに直接、接続してください。

* 市販の USB ケーブルをご使用になる場合、高品質 (USB 規格認証ケーブル) のケーブルや、できるだけ短いケーブルを使用してください。

(4 ページ [USB ケーブルについて] を参照)


スマートフォン / メディアプレーヤーなどを接続する

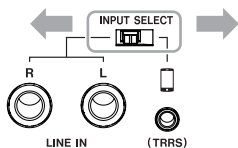
スマートフォンなどの携帯機器、またはメディアプレーヤーなどのオーディオ機器をリアパネルの、LINE IN L/R 端子 (23) または LINE IN (TRRS) 端子 (24) に接続して、お好みの音源を入力できます。



- 本機と LINE IN (TRRS) 端子に接続された携帯電話やスマートフォンで通話をする、通話相手の音声を本機に入力したり、本機の音声を通話相手に送ることができます。

メモ

LINE IN (TRRS) 端子に出力される音声には、常にミックスマイナス機能が働いています。これによって通話相手の音声が通話相手に戻らないようになっています。

1. 入力に使用したい機器に合わせて、本機のリアパネルにある INPUT SELECT スイッチ (18) を以下に切り換えます。
 - スマートフォンなどの携帯機器を LINE IN (TRRS) 端子 (24) に接続する
INPUT SELECT スイッチ (18) : 「(TRRS)」  側
 - メディアプレーヤーなどのオーディオ機器を LINE IN L/R 端子 (23) に接続する
INPUT SELECT スイッチ (18) : 「LINE IN」側



2. メニュー画面から入力アイコン  をタップし、入力画面を開いて、スマートフォンアイコン  をタップし、34 ページ [3 スマートフォン設定] からボイス設定が行えます。



入力画面

録音機器やモニタースピーカーを接続する

本機でミックスした音声や再生した音声をリアパネルの MONITOR OUT L/R 端子 (22)、または LINE OUT 端子 (22) から、録音機器やモニタースピーカー (パワードモニタースピーカーまたはアンプ / スピーカーシステム) に出力できます。

- MONITOR OUT L/R 端子 (22)
例として、6.3 mm (1/4") TRS 標準ジャック対応の録音機器やパワードモニタースピーカーを接続
- LINE OUT 端子 (22)
例として、LINE 入力に対応した録音機器の入力端子に接続
スピーカーの音量は、トップパネルの MONITOR OUT つまみ (5) で調節します。

メモ

MONITOR OUT つまみ (5) で、音量調整ができない場合、36 ページ [1 AUDIO] 設定で、「ラインレベル出力」の項目が「オフ」になっているか、確認してください。「オン」になっている場合は、音量調整が行えません。

注意

電源を入れる前やモニタースピーカーを接続する前に、トップパネルの MONITOR OUT つまみ (5) を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴覚障害などの原因となることがあります。

Bluetooth 機器と接続する

本機は、Bluetooth 音声モジュールを搭載しており、Bluetooth (A2DP) に対応したパソコンやポータブルオーディオ機器 (Bluetooth 機器) の再生音声を入力したり、本機の音声を Bluetooth 機器に出力することができます。

また、本機と Bluetooth で接続されたスマートフォンで通話をする、通話相手の音声を本機に入力したり、本機の音声を通話相手に送ることができます。

メモ

Bluetooth 機器に出力される音声には、常にミックスマイナス機能が働いています。これによって通話相手の音声が通話相手に戻らないようになっています。

ペアリング

Bluetooth 機器と通信を行うには、まず以下の手順でペアリングを行います。

メモ

ペアリングを行うには、Bluetooth 機器の操作も必要です。お使いの Bluetooth 機器の操作方法については、機器側の取扱説明書をご確認ください。

1. メニュー画面から入力アイコン  をタップし、入力画面を開いて、Bluetooth アイコン  をタップしてください。



入力画面

- 次に、下図レベル画面が開きますので、「ペアリング」ボタンをタップして、Bluetooth 機器側とペアリングを開始してください。

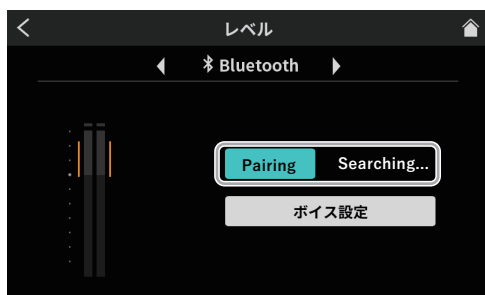


レベル画面

メモ

本機の電源をオンにしてから、しばらくの間は自動的にペアリングモードを実行します。その後、ペアリングモードを解除します。


- Bluetooth 機器を検索中は、「ペアリング」ボタンがハイライト表示になり、ボタン右側のメッセージ欄に「接続中...」と表示します。



レベル画面

メモ

しばらくしても接続が完了しない場合は、自動的にペアリングモードを終了します。再度ペアリングモードにするには、もう一度「ペアリング」ボタンをタップしてください。

- 接続する Bluetooth 機器側は、「TASCAM Mixcast」を選択してください。
- Bluetooth の接続が完了するとメッセージ欄に「接続済み」と表示し、タッチスクリーンのホーム画面右上に Bluetooth アイコン  を表示します。
- Bluetooth 接続完了後、34 ページ [4 Bluetooth 設定] から音声設定が行えます。

SD カードの挿入 / 取り出し / ライトプロテクト

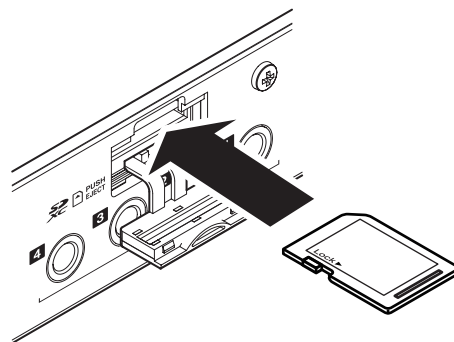
SD カードをセットする

本機では、SD カードを使って録音や再生を行います。使用できる SD カードは、Class 10 以上の SD/SDHC/SDXC 規格に対応した SD カードです。

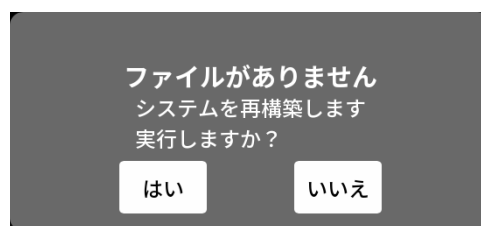
メモ


- 本製品には、SD カードは含まれておりません。ご使用の用途に合わせて、必要なものを別途お買い求めください。
- 各チャンネルの入力を全て録音するマルチトラック録音では SD カード容量を多く消費するため、64GB 以上の SD カードを使用することを推奨いたします。
- 本機にて動作が確認された SD カードのリストが、TASCAM のウェブサイト (<https://tascam.jp/jp/>) に掲載されていますので、本機の製品ページをご参照ください。もしくは、タスカム カスタマーサポートまでお問い合わせください。

- リアパネルの SD カードスロット (16) の背面のカバーを開けて、カードをスロット部にカチッというまで挿入してください。



- SD カードを挿入した際、タッチスクリーンに下記のポップアップメッセージが表示された場合、フォーマットが必要です。



- 「はい」をタップするとフォーマットをスタートします。
- 本機が SD カードを認識するとタッチスクリーンのホーム画面右上に SD カードアイコン  を表示します。

メモ


本機でフォーマットされた SD カードは、録音時の性能向上のために最適化されています。そのため、本機で使用する SD カードは、本機でフォーマットを行ってください。パソコンなどでフォーマットされた SD カードは、本機での録音時にエラーになる可能性があります。

SD カードを取り出す

電源をオフにするか、動作が停止してから、SD カードを軽く押し込むと出てきますので、取り出します。

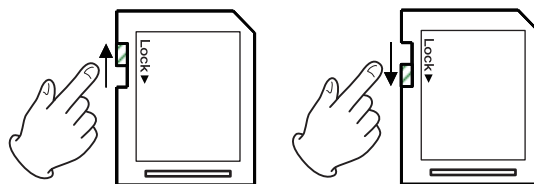
注意

本機が動作中 (録音中、再生中、SD カードにデータを書き込み中など) は、絶対に SD カードを取り出さないでください。録音が正しく行われなかったり、データが破損したり、モニター機器から突然大きな音が出て、機器の破損や聴覚障害の原因になるなどの可能性があります。

- リアパネルの SD カードスロット (16) の背面のカバーを開けて、カードを軽く押し込むと出てきます。
- SD カードを引き出します。
- 本機のタッチスクリーン右上の SD カードアイコン  が、非表示になります。

SD カードのライトプロテクトスイッチについて

SD カードには、ライトプロテクト (書き込み防止) スイッチが付いています。



ライトプロテクトスイッチを「LOCK」の方向へスライドすると書き込みができなくなります。録音や削除などを行う場合は、ライトプロテクトを解除してください。

第4章 入力設定について

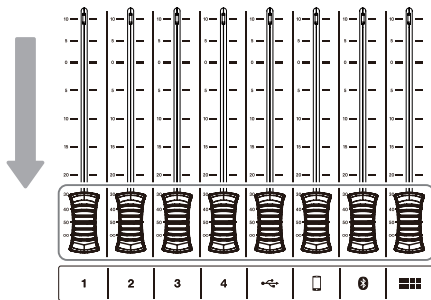
入力レベル / 音質や音声を調整する

ポッドキャスト用の収録を始める前に、各入力の調整を行います。入力音量が大きすぎて歪んだり、小さすぎて聴き取れないことがないように、入力レベルや音質、音声の調整を行います。

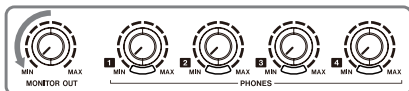
操作つまみやフェーダーの音量を下げる

入力調整に入る前に本機の以下の操作つまみやフェーダー、および接続する機器側の操作つまみやフェーダーを下げてください。

- チャンネルフェーダー (13) を下げる。

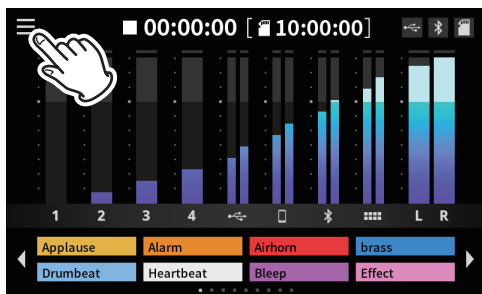


- MONITOR OUT つまみ (5)、PHONES 1 - 4 つまみ (6) を下げる。



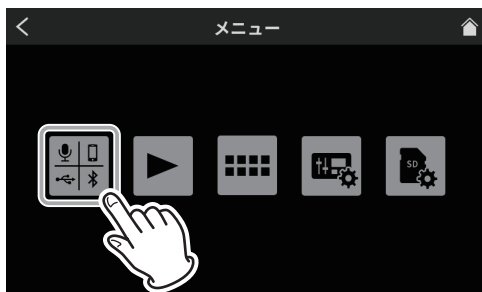
調整するマイクを選択する

1. タッチスクリーンのホーム画面からメニューアイコン をタップして、メニュー画面を開きます。



ホーム画面

2. 入力アイコン をタップします。



メニュー画面

3. 入力画面で、調整を行うマイク入力をマイクアイコン から からタップして選択します。



入力画面

4. 次にレベル画面が開きます。(下図は、「MIC INPUT 1」を例とします。)

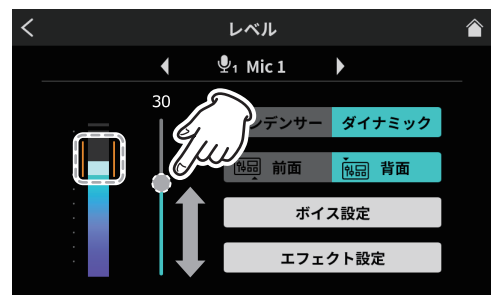


レベル画面 (例: MIC INPUT 1)

マイク入力のレベル調整

ここでは、MIC INPUT 1 の調整方法を例とします。

1. MIC INPUT 1 に音声を入れながら、レベル画面の入力レベルをスライダーのカーソルで調整します。大きすぎて歪んだり、小さすぎにならないように、レベルメーターのオレンジ部分の範囲内に、マイク音量のピークを調整してください。
2. チャンネルフェーダー 1 を上げて、モニタースピーカーから音が聞こえるように、MONITOR OUT つまみ (5) を徐々に上げてください。



レベル調整

マイク入力の音質調整 (ボイス設定)

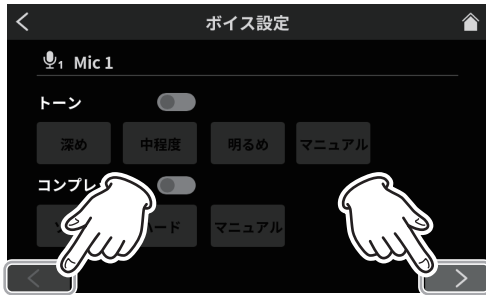
音量のピークを調整後、マイク入力の音質をお好みで調整します。

1. 「ボイス設定」ボタンをタップします。



ボイス設定選択画面

2. 最初にボイス設定 -1 画面を開きます。
ボイス設定画面は、2 画面構成になっています。

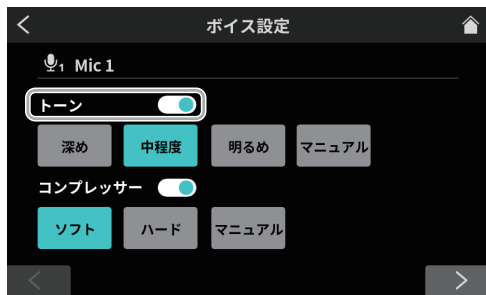


ボイス設定 -1 画面 (例: MIC INPUT 1 端子)

画面下の「<」/「>」ボタンをタップすると、ボイス設定 -1 画面とボイス設定 -2 画面に切り換わります。

トーンの調整

トーンスイッチをタップして、オンにします。
トーンは、3 種類のプリセット値を選択できます。プリセット以外の調整を行う場合、マニュアルを選択します。



ボイス設定 -1 画面 (例: MIC INPUT 1 端子)

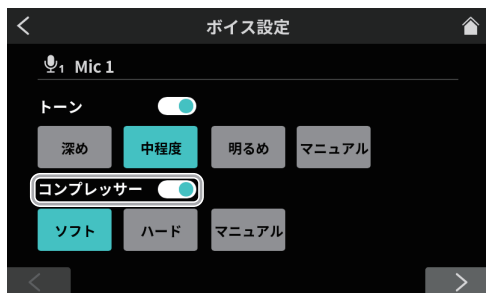
トーン設定の各アイコンをタップして選択すると、アイコンがハイライト表示に変わり、機能がオンになります。

- 深め : 低音域が強調され、深みがある音色になります。
- 中程度 : 中音域が強調されます。(初期値)
- 明るめ : 高音域が強調され、明るい音色になります。
- マニュアル : トーンの詳細な調整が可能です。マニュアルアイコンをタップすると設定アイコン を表示します。



設定アイコン をタップするとトーンマニュアル設定画面を開きますので、29 ページ [トーンマニュアル設定] を参照してください。

コンプレッサーの調整



ボイス設定 -1 画面 (例: MIC INPUT 1 端子)

コンプレッサースイッチをタップして、オンにします。

コンプレッサーでは、下記の 2 種類のプリセット値を選択できます。プリセット以外の調整を行う場合、マニュアルを選択します。

コンプレッサー設定の各アイコンをタップして選択すると、アイコンがハイライト表示に変わり、機能がオンになります。

- ソフト : 音の大きい部分を自然に押さえ込みます。(初期値)
- ハード : 全体的に小さく押さえ込み、レベルを均一に揃えます。
- マニュアル : コンプレッサーの詳細な調整が可能です。マニュアルアイコンをタップすると設定アイコン を表示します。



設定アイコン をタップするとコンプレッサーマニュアル設定画面を開きますので、30 ページ [コンプレッサーマニュアル設定] を参照してください。

3. ボイス設定 -1 画面の設定が完了したら、画面下の「>」ボタンをタップして、ボイス設定 -2 画面を表示させます。

プロセッシングの調整



ボイス設定 -2 画面 (例: MIC INPUT 1 端子)

プロセッシングスイッチをタップして、オンにします。

プロセッシング設定の各アイコンをタップして選択すると、アイコンがハイライト表示に変わり、機能がオンになります。

- ディエッサー : 高周波数の耳障りな歯擦音を調整します。
- ノイズサブレッサー : ノイズを除去する範囲を調整できます。
- ダッキング (*) : MIC INPUT 1 に入力信号がある場合に、他の信号レベルを下げて、MIC INPUT 1 をダッキング調整後の内容で、出力します。

* ダッキング設定は、MIC INPUT 1 のみ対応。

- プロセッシング設定の各機能をオンにすると、設定アイコン を表示します。

設定アイコン をタップすると、より詳細な調整が可能です。

- ディエッサーマニュアル設定については、30 ページを参照してください。
- ノイズサブレッサー設定については、30 ページを参照してください。
- ダッキングマニュアル設定については、31 ページを参照してください。

第4章 入力設定について

マイク入力の音声調整 (エフェクト設定)

マイク入力の音声をお好みで変えたい場合、以下の調整で行えます。エフェクトの機能は、SOUND PAD ボタン (⑫) と連携します。いずれかのパッドボタンにエフェクトを登録して、パッドボタンが押された時に、設定した内容で動作します。エフェクトをオンに設定できるのはひとつのチャンネルのみです。

メモ

SOUND PAD ボタン (⑫) に登録できるエフェクトの機能は、「リバーブ」または「ボイスチェンジャー」のどちらかになります。

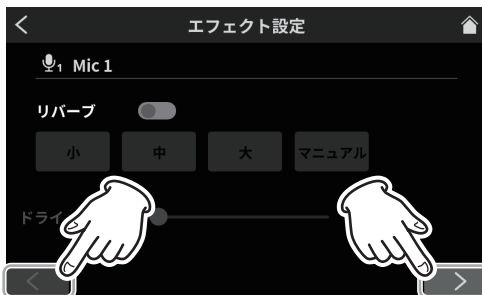
1. 「エフェクト設定」ボタンをタップします。



エフェクト設定選択画面

確認メッセージが表示されます。「OK」をタップすると、エフェクト設定画面が表示されます。

2. 最初にエフェクト設定-1画面を開きます。エフェクト設定画面は、2画面構成になっています。

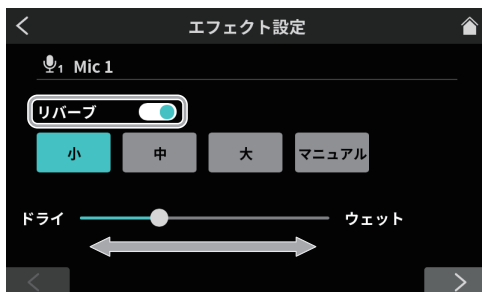


エフェクト設定-1画面 (例: MIC INPUT 1 端子)

画面下の「<」/「>」ボタンをタップすると、エフェクト設定-1画面とエフェクト設定-2画面に切り換わります。エフェクト設定-1画面では、以下の設定を行えます。


リバーブの調整

リバーブ機能は、反射音の設定や調整が行えます。




エフェクト設定-1画面

リバーブスイッチをオンにすると、確認メッセージが表示されます。「OK」をタップするとリバーブ機能が有効になります。

- リバーブでは、下記の3種類のプリセット値を選択できます。プリセット以外の調整を行う場合、マニュアルを選択します。
- リバーブ設定の各アイコンをタップして選択すると、アイコンがハイライト表示に変わり、その設定で動作します。
 - 小 : リバーブマニュアル設定の「ルーム」に相当し、もっとも反射音や残響音が少なくなります。
 - 中 (初期値) : リバーブマニュアル設定の「スタジオ」に相当し、反射音や残響音は、小と大の間になります。
 - 大 : リバーブマニュアル設定の「ホール」に相当し、もっとも反射音や残響音が大きくなります。
 - ドライ/ウェット : スライダーのカーソルを移動させて、リバーブ効果の強弱を調整します。
- マニュアル : リバーブの詳細な調整が可能です。マニュアルアイコンをタップすると設定アイコン  を表示します。

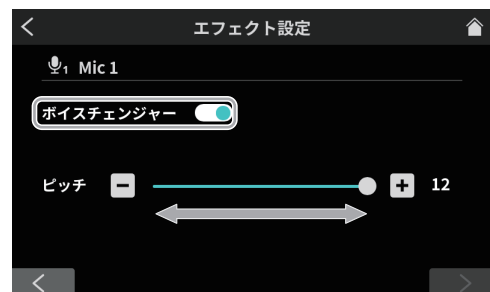


設定アイコン  をタップすると、リバーブマニュアル設定画面を開きますので、32ページ [リバーブマニュアル設定] を参照してください。

3. エフェクト設定-1画面の設定が完了したら、画面下の「>」ボタンをタップして、エフェクト設定-2画面を表示させます。エフェクト設定-2画面では、以下の設定を行えます。


ボイスチェンジャーの調整

ボイスチェンジャー機能は、ピッチ調整で音声を低音や高音に変換が行えます。



エフェクト設定-2画面

ボイスチェンジャースイッチをオンにすると、ボイスチェンジャー機能が有効になります。スライダーのカーソル移動と[-]/[+]ボタンで、ピッチを調整します。

4. 以上で、MIC INPUT 1 のマイク入力の設定は終了です。
5. 続けて、MIC INPUT 1 と同じ方法で MIC INPUT 2-4 のマイク入力設定を行ってください。また、必要に応じて、メニュー画面から入力アイコン  をタップし、入力画面を開いて、下記入力の調整や設定を行ってください。



入力画面

- USB 設定 (32 ページを参照)
- スマートフォン設定 (34 ページを参照)
- Bluetooth 設定 (34 ページ) を参照

第5章 録音 / 再生する

録音する

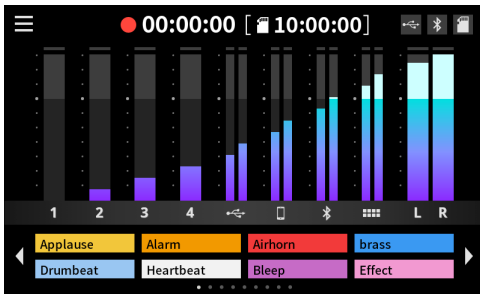
各チャンネルの入力レベル / 音質や音声の調整が終わったら、ポッドキャストの録音を開始します。

1. SD カードをセットします。
2. サウンドパッドに登録してある効果音や BGM を録音中に挿入する場合、録音を開始する前にホーム画面で、必要な音が登録してあるサウンドパッドのバンクに切り換えてください。
 - バンクの切り換え方法は、19 ページ [録音中に効果音を挿入する] を参照してください。
 - サウンドパッドに効果音や BGM の登録方法は、24 ページ [サウンドパッドについて] を参照してください。

メモ

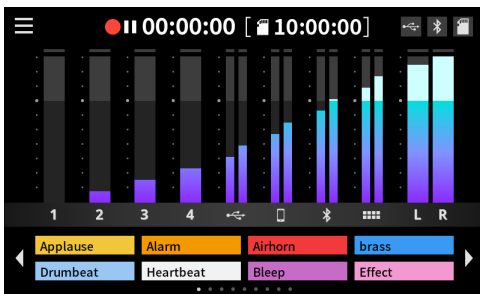
録音中は、サウンドパッドのバンクを切り換えることはできません。

3. 準備が整ったら、本機の REC/PAUSE [●] ボタン (9) を押して、録音を開始します。



録音中のホーム画面

- 録音中に REC/PAUSE [●] ボタン (9) を押すと、録音一時停止になります。(録音一時停止中は、録音一時停止アイコン「● ||」を表示します。)

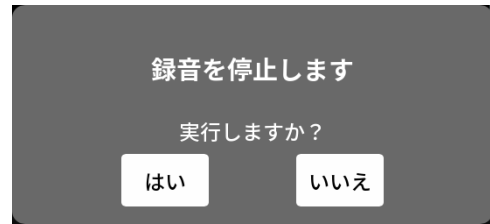


録音一時停止中画面

4. 録音を停止するには、録音中や録音一時停止中に STOP [■] ボタン (7) を押します。



下記メッセージを表示します。



5. 「はい」をタップすると録音が終了します。

メモ

メッセージの表示中も、「はい」をタップするまでは、録音を継続しています。

6. 録音が停止後、リネーム画面が表示されます。仮の名称が表示されますので、必要に応じて、スクリーンキーボードから新しいポッドキャスト名を入力し、「決定」をタップします。



リネーム画面

メモ

- キーボード上の「Aa」をタップする毎に大文字、小文字、数字 / 記号を切り換えます。
- 入力を間違えたときは、「削除」で一文字ずつ、消去できます。
- ポッドキャストファイルは、SD カードの PODCAST フォルダに保存されます。
- 保存されるファイルは、「ポッドキャスト名_01.wav」というファイル名になります。ファイルサイズが、4GB に到達すると、次のファイル名で「ポッドキャスト名_02.wav」、「ポッドキャスト名_03.wav」というファイルが順に作成されます。

メモ

SD マルチ録音がオンの場合、ファイルには下記の並び順で録音されます。

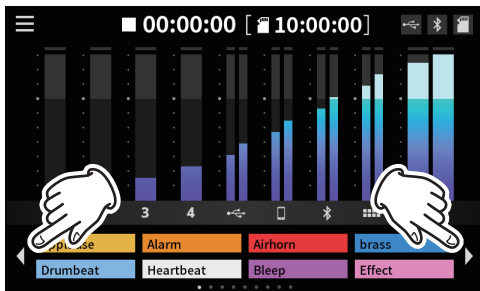
1/2/3/4 チャンネル	MIC INPUT 1-4 の入力信号
5/6 チャンネル	USB からの入力信号
7/8 チャンネル	LINE IN L/R または LINE IN (TRRS) の入力信号
9/10 チャンネル	Bluetooth からの入力信号
11/12 チャンネル	サウンドパッドの再生音
13/14 チャンネル	2 MIX

- SD マルチ録音がオフの場合、2MIX だけが録音されます。(37 ページ [2] MULTI TRACK] を参照)

録音中に効果音を挿入する

サウンドパッドに登録してある効果音やBGMを録音中に挿入することができます。

1. ホーム画面から、必要な音が登録してあるサウンドパッドのバンクに、切り換えアイコン◀/▶でバンクを切り換えます。



ホーム画面 (バンク切り換え)

2. バンクの切り換えが終わったら、登録してある SOUND PAD ボタン (12) を押して、音を鳴らします。

メモ

- 録音中に効果音やBGMを鳴らした場合、その音も一緒に録音されます。
- 録音中にバンクの切り換えは、行えません。録音開始前に必要なバンクに切り換えてから、録音を開始してください。

録音中にマークポイントを登録する

録音中にイベントが発生した位置で MARK ボタン (8) を押すと、その位置で、マークポイントを登録します。

録音後の内容確認や、内容を変更したい場合に便利です。



録音した内容を専用ソフトウェアで編集する、または再生画面の拡張設定画面で上書きする際に、必要なポイントが素早く検索できます。

登録したマークポイントは、再生時に拡張設定画面で確認できます。(21 ページ [拡張設定画面で、登録したマークポイントを確認する] を参照)

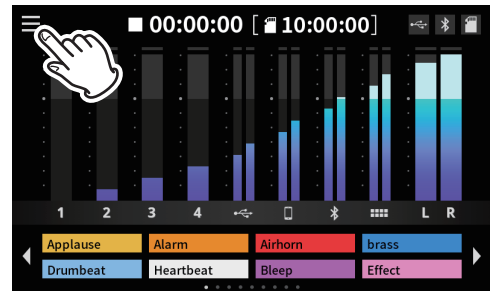
メモ

1つのポッドキャストに登録可能なマークポイントは、99箇所までになります。

再生する

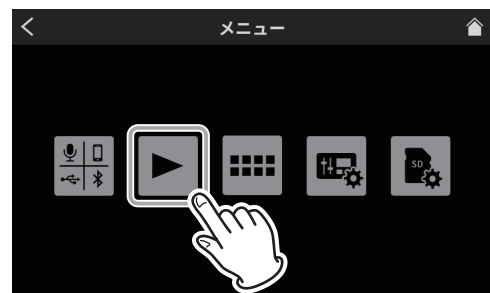
本機で録音したポッドキャストを再生できます。

1. タッチスクリーンのホーム画面からメニューアイコン☰をタップして、メニュー画面を開きます。



ホーム画面

2. 再生アイコン▶をタップします。



メニュー画面

ポッドキャストの再生画面を表示します。

3. 再生したいポッドキャストをタップして、選択します。



再生画面

選択したポッドキャストは、ハイライト表示になります。

4. 再生アイコン「▶」をタップすると再生が始まります。MARK ボタンが点灯中に、MARK ボタン (8) を押すと、押した位置でマークポイントを登録します。(20 ページ [再生中にマークポイントを登録する] を参照)

第5章 録音 / 再生する

- 再生中は、再生アイコン「▶」が、一時停止アイコン「⏸」に変わります。
一時停止アイコン「⏸」をタップすると、再生一時停止になります。
- 再生一時停止中は、再生アイコン「▶」に変わります。
もう一度、再生アイコン「▶」をタップすると、続きから再生が始まります。



停止画面

- 再生一時停止中に STOP [■] ボタン (⑦) を押すと、ポッドキャストの再生開始位置が先頭に戻ります。
他のポッドキャストを選択するか、再生画面以外に移動すると、再生中のポッドキャストを停止します。


ポッドキャスト名を修正する

ポッドキャスト名を以下の手順で修正できます。

- 再生画面から修正したいポッドキャストをタップして、選択します。



再生画面

- 選択したポッドキャストは、ハイライト表示になります。
- リネームアイコン  をタップして、リネーム画面を表示します。
スクリーンキーボードから新しいポッドキャスト名を入力します。



リネーム画面


- キーボード上の「Aa」をタップする毎に大文字、小文字、数字 / 記号を切り換えます。
 - 入力を間違えたときは、「削除」で一文字ずつ、消去できます。
- ポッドキャスト名の修正が完了したら、スクリーンキーボードから「決定」をタップして、確定させます。

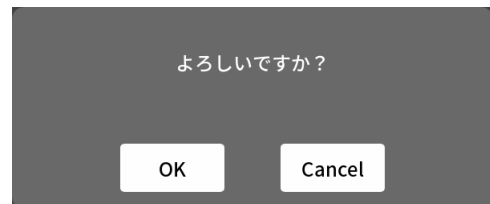
ポッドキャストを削除する

- 再生画面から削除したいポッドキャストをタップして、選択します。



再生画面

- ゴミ箱アイコン  を押すと下記のメッセージを表示します。



「OK」をタップすると、ポッドキャストを削除します。

⚠ 注意

削除したポッドキャストは、元に戻すことはできません。
大事なデータを削除しないように、操作ミスにご注意ください。

再生中にマークポイントを登録する

マークポイントを登録しておくで録音した内容を専用ソフトウェアで編集する、または拡張設定画面で上書きする際に、必要なポイントが素早く検索できます。

- 再生中にマークポイントを登録したい位置で、MARK ボタン (⑧) を押すと、その位置にマークポイントを登録します。



- マークポイントが登録されると、下記メッセージを表示します。

マーク追加 01

登録したマークポイントは、拡張設定  で確認できます。

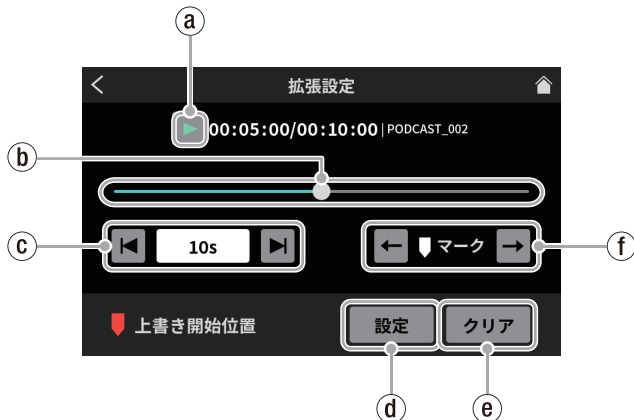
再生用拡張機能

再生用の拡張機能で、ポッドキャストの上書き録音や確認作業ができます。再生画面から拡張設定ボタンをタップします。



再生画面

3. 拡張設定画面が表示されます。



拡張設定画面

- ① **再生アイコン**
タップすると、選択したポッドキャストを再生します。再生中は、再生アイコン「▶」が一時停止中アイコン「⏸」に変わります。
- ② **タイムラインとカーソル**
タイムライン上をスライダーのカーソル移動で、任意の場所に移動できます。
- ③ **タイムジャンプ**
時間表示のウィンドウをタップすると、前後に移動するジャンプ時間を表示しますので、下記から選択します。
 - 1s、5s、10s(初期値)、30s
 ジャンプ時間を選択後、アイコン ◀/▶ をタップしながら、上書き録音する場所を探索できます。
- ④ **設定ボタン**
タップすると、スライダーのカーソル位置にマーク(上書き開始位置)が移動します。
- ⑤ **クリアボタン**
設定ボタンで表示したマーク(上書き開始位置)を消します。
- ⑥ **マークジャンプ**
マークポイントを登録したポッドキャストを再生する場合、アイコン ◀/▶ をタップして、カーソルをタイムライン上のマークポイントに、直接移動できます。

拡張設定画面で、登録したマークポイントを確認する

拡張設定画面で登録したマークポイントを確認することができます。拡張設定ボタンをタップして、拡張設定画面を表示させます。



再生画面

- マークポイントが登録されているポッドキャストは、タイムライン上にマークポイントが表示されます。



拡張設定画面

- マークジャンプアイコン ◀/▶ をタップして、タイムライン上のマークポイントに、カーソルを移動することができます。



拡張設定画面

拡張設定画面で、登録したマークポイントを削除する

登録したマークポイントを削除したい場合、再生が停止中(および一時停止中)にマークジャンプアイコン ◀/▶ で、目的のマークポイントにカーソルを移動させ、MARK ボタン(Ⓞ)を押すと、そのマークポイントが削除されます。



拡張設定画面

マークポイントが削除されると、下記メッセージを表示します。



第5章 録音 / 再生する

上書き録音する (オーバーライト録音)

収録済みのポッドキャストを登録したマークポイント、または任意の位置から再生用拡張機能を使って、上書き録音をすることができます。

登録したマークポイントから上書き録音する

再生画面から上書き録音するポッドキャストを選択し、拡張設定ボタンをタップして、拡張設定画面を表示させます。

1. 拡張設定画面で、タイムライン上のマークポイントにマークジャンプ [◀/▶] で、上書き録音を開始したい位置にカーソルを移動させ、設定ボタンをタップします。



拡張設定画面

録音の開始位置が設定され、タイムライン上にマーク (上書き開始位置) が表示されます。

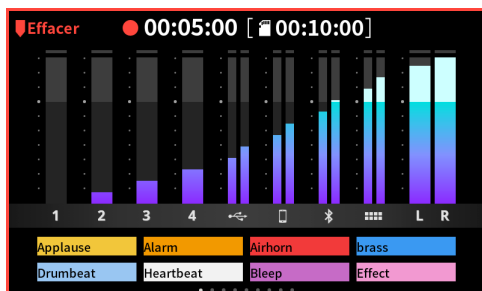


拡張設定画面

メモ

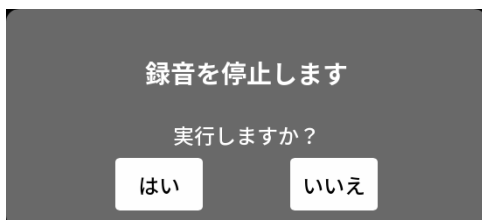
上書き録音の開始位置は「00:00:01」より、後ろに設定されます。

2. REC/PAUSE [●] ボタン (9) を押して、上書き録音を開始します。
 - 上書き録音中は、上書き録音専用のホーム画面を表示します。



上書き録音専用のホーム画面

3. 録音が終わったら、STOP [■] ボタン (7) を押します。下記メッセージを表示します。



4. 「はい」をタップすると録音を終了し、確認画面を表示します。



拡張設定画面

確認画面で、再生アイコン「▶」をタップして、上書き録音した内容を確認します。

- 問題無ければ「終了」をタップしてください。
- 上書き録音をやり直したい場合は、「リトライ」をタップすると、手順 2. の確認メッセージを表示しますので、REC/PAUSE [●] ボタン (9) を押してください。もう一度、同じ位置から上書き録音を行うことができます。
- 上書き録音を中断したい場合は、「破棄」をタップしてください。

TALKBACK 機能を使う

TALKBACK 機能を使うと、ポッドキャストの収録中などにマイク 1 (指示者) から話した内容を、PHONES 2 - 4 (参加者) にだけ伝えることができます。



TALKBACK

- TALKBACK 機能を使用するには、TALKBACK ボタン (3) を押したまま、Mic 1 から話します。TALKBACK ボタン (3) を押している間だけ、PHONES 2 - 4 端子に出力します。また SOLO 機能を使用していないときには、PHONES 1 端子および PHONES (TRRS) 1 端子にも出力します。
- TALKBACK ボタン (3) を押している間、Mic 1 入力の音声は、ミュート状態になり録音されません。MONITOR OUT L/R 端子、および LINE OUT 端子 (22) にも出力されません。

第6章 TASCAM Podcast Editor を使用する

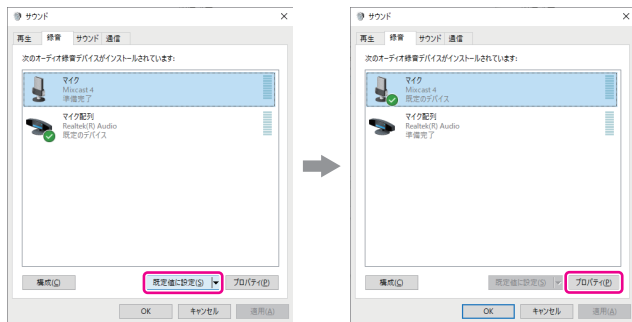
本機をパソコンやスマートフォン・タブレット端末と USB 接続することで、14イン/2アウトのUSB オーディオインターフェースとしての機能を使用することができます。

また、専用ソフトウェア(*)を使用して、効果音やBGMなどをサウンドパッドのパッドボタンに登録する、または本体で録音したポッドキャストの編集ができます。

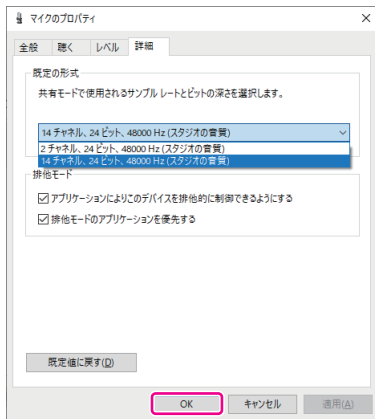
* 専用ソフトウェアについては、「TASCAM Podcast Editor」の取扱説明書をお読みください。

Windows OS で使用する場合のサウンド設定

1. 「設定」→「システム」→「サウンド」からサウンドコントロールパネルを開きます。
2. 「録音タブ」を選択して、「マイク (Mixcast 4)」を選択後、「既定値に設定 (S)」をクリックします。「マイク (Mixcast 4)」にチェックマーク (✓) が付いたことを確認して、「プロパティ (P)」をクリックします。



3. 「マイクのプロパティ」画面から、「詳細」タブの「既定の形式」 「14チャンネル、24ビット、48000Hz」を選択し、「OK」ボタンを押します。



- TASCAM Podcast Editor などマルチチャンネルに対応しているソフトウェアを使用する場合は、14チャンネルの設定を選択します。
- OBS Studio などの2チャンネルのオーディオデバイスを対象とするアプリケーションを使用する場合は、2チャンネルの設定を選択します。

以上で、Windows OS のサウンド設定は完了です。

メモ

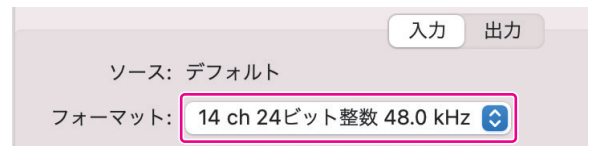
Windows OS の場合、専用 ASIO ドライバーをインストールすることで、一般的な DAW ソフトウェア (ASIO 対応品) も使用できます。本機の web サイトより専用 ASIO ドライバーをダウンロードできます。

Mac OS で使用する場合 (オーディオ設定について)

1. アプリケーションから「Audio MIDI 設定」アプリを開きます。
2. サイドバーに表示されている「Mixcast 4」をサウンド入力装置 (マイク / スピーカー) に設定します。



- 「通知音とサウンドエフェクトを再生」は、外しておきます。
3. 「入力」のフォーマット設定が下図のように「14ch」になっていることを確認します。



以上で、Mac OS のオーディオ設定は完了です。

iOS/iPadOS/Android デバイスを使用する場合

iOS/iPadOS/Android デバイスと接続して使用する場合は、「サウンド」設定や「オーディオ」設定は不要です。

USB に出力されるデータ

本機から出力されるデータは下記の並び順でパソコンやスマートフォン・タブレット端末に入力されます。

1/2 チャンネル	2 MIX
3/4/5/6 チャンネル	MIC INPUT 1-4 の入力信号
7/8 チャンネル	USB からの入力信号
9/10 チャンネル	LINE IN L/R または LINE IN (TRRS) の入力信号
11/12 チャンネル	Bluetooth からの入力信号
13/14 チャンネル	サウンドパッドの再生音

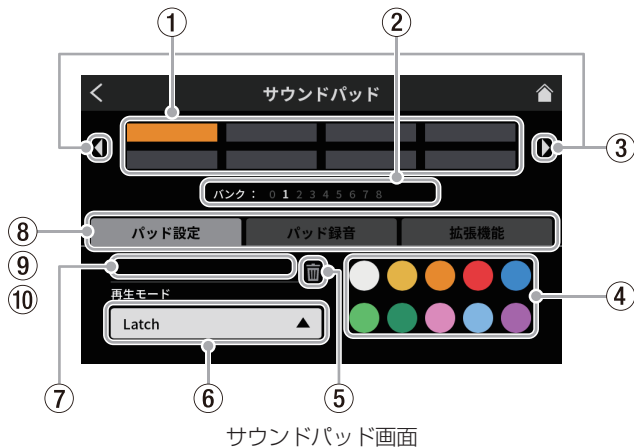
第7章 サウンドパッドを使用する

サウンドパッドについて

- トップパネルの SOUND PAD ボタン (12) の各パッドボタンに効果音や BGM などの音源を登録することができます。
 - 本書では、パッドボタン (1-8) の音源設定を 1 つのグループとして、バンクと呼びます。
 - 本機には、9 つのバンク (0-8) があり、バンクを切り換えることで、合計 72 種類の音源が再生可能です。バンク (1-8) の各パッドボタンには、最大 8 つの音源を設定することができます。
 - バンク 0 には、プリセットされた内蔵音源が、割り当てられています。
- 各パッドボタンを押すことで、設定した音源を再生できます。収録中に登録音源を再生して、収録内容に様々な効果を与えることができます。
- 専用ソフトウェアを使用して、各パッドボタンに音源を転送することができます。(専用ソフトウェアについては、「TASCAM Podcast Editor」の取扱説明書をお読みください。)
 - サウンドパッド設定のパッド設定で、各パッドボタンに割り当てる機能の編集 (色、再生方法、設定の削除) ができます。(24 ページ [8] パッド設定) を参照)
 - サウンドパッド設定の拡張機能で、各パッドボタンに「ピー音」やエフェクト (*) を設定することができます。(24 ページ [10] 拡張機能) を参照)
 - * マイク設定のエフェクト設定の内容をサウンドパッドに登録して反映させることができます。(16 ページ [マイク入力の音声調整 (エフェクト設定)] を参照)
 - サウンドパッド設定のパッド録音で、各パッドボタンに収録した音源や効果音を登録することができます。(24 ページ [9] パッド録音) を参照)

サウンドパッド画面の機能説明

タッチスクリーンのホーム画面からメニューアイコン をタップして、メニュー画面からサウンドパッドアイコン をタップすると、サウンドパッド画面を表示します。



サウンドパッド画面

- ① **パッド**
パッドをタップして、割り当てられた機能確認や変更ができます。本体の SOUND PAD ボタン (12) とリンクしています。
- ② **サウンドパッドのバンク表示**
現在選択中のバンクが、どのバンク番号にあるかハイライトして表示します。
- ③ **サウンドパッドのバンク切り換えアイコン**
 - ◀ アイコンをタップすると、前のバンクに切り換えます。
 - ▶ アイコンをタップすると、次のバンクに切り換えます。

- ④ **パッド色設定**
選択中のパッドの色を変更できます。
- ⑤ **削除アイコン**
アイコンをタップすると、選択中のパッドに割り当てられた設定や機能が解除されます。
- ⑥ **再生モード**
選択中のパッドの効果音や BGM の出力方法を表示します。また、出力方法を選択して、変更することができます。ボタンをタップして、以下から再生モードを選択します。
 - Latch 1 回押すと再生し、もう一度押すと停止します。再度、押すと先頭から再生し、何も操作しなければ、ファイルの最後まで再生し、停止します。
 - Pause 1 回押すと再生し、もう一度押すと一時停止します。再度、押すと続きから再生し、何も操作しなければ、ファイルの最後まで再生し、停止します。
 - RePlay 1 回押すと再生し、もう一度押すと再び、先頭から再生します。何も操作しなければ、ファイルの最後まで再生し、停止します。
 - One Shot 1 回押すと再生し、ファイルの最後まで再生します。途中で再生を止めるには、パッドボタンを長押しします。
 - Repeat 1 回押すと再生し、もう一度押すと停止します。再度、押すと先頭から再生し、何も操作しなければ、繰り返し再生を行います。
 - Touch 押している間だけ、再生します。
- ⑦ **音源ファイル名**
パッドに表示している音源のファイル名を表示します。
- ⑧ **パッド設定**
 - お好みの色をパッド色設定 (4) から選択して、変更することができます。(本体の SOUND PAD ボタン (12) も対応する色で点灯します。)
 - 効果音や BGM の出力方法を再生モードボタン (6) で設定できます。
- ⑨ **パッド録音**
各入力信号から効果音や BGM の取り込みを行えます。(26 ページ [サウンドパッドに録音して登録する] を参照)
- ⑩ **拡張機能**
マイク設定のエフェクト設定で、調整した内容を反映します。(25 ページ [サウンドパッドにエフェクトを登録する] を参照)

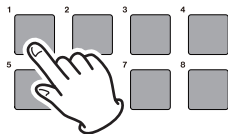
サウンドパッドを再生する

ホーム画面やメニュー画面でサウンドパッドの再生を行うことができます。

メモ

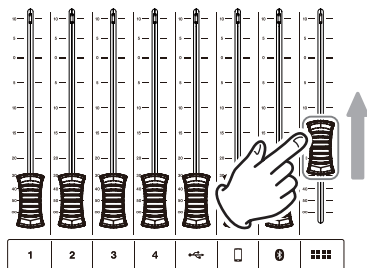
再生画面や拡張設定画面でポッドキャストの再生中は、サウンドパッドを使用することができません。

1. SOUND PAD ボタン (12) を押して、各ボタンの再生音を確認できます。



パッド再生

2. チャンネルフェーダー (13) で、再生音量を調整します。



フェーダー調整

サウンドパッドにエフェクトを登録する

マイク入力の音声をサウンドパッドに登録したエフェクトで変化させることができます。

ここでは、例としてバンク 1 のパッド 1 にエフェクト機能のボイスチェンジャーを使用した音声を登録する手順を記載します。

1. SD カードをセットします。
2. マイク設定のエフェクト設定 > ボイスチェンジャー機能をオンにして、お好みの音声効果に調整してください。調整した内容が、パッドを押したときのエフェクトになります。(16 ページ [マイク入力の音声調整 (エフェクト設定)] を参照)
3. サウンドパッド画面を開き、パッド設定画面からバンク 1 に移動します。

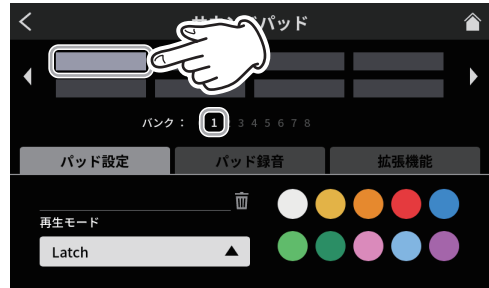


パッド設定画面

メモ

- バンク 0 には、プリセットされた内蔵音源が割り当てられていますので、バンク 1-8 を選択してください。
- 登録したいバンク先のパッドが、すでに登録済みの場合は、ゴミ箱アイコン (14) をタップして、登録済みパッドを削除するか、他の空いているパッドをタップしてください。

4. バンク 1 の画面を開いたら、パッド 1 をタップします。



パッド設定画面

5. 次に「拡張機能」タブをタップして、拡張機能タブを開きます。



パッド設定画面

6. 拡張機能タブに切り換わりますので、「エフェクト」のボタンをタップします。バンク 1-パッド 1 に「Effect」と表示されます。



拡張機能画面

- これでバンク 1-パッド 1 に、エフェクト機能が登録されました。

7. 次に、「パッド設定」タブをタップして、パッド設定画面に戻ります。




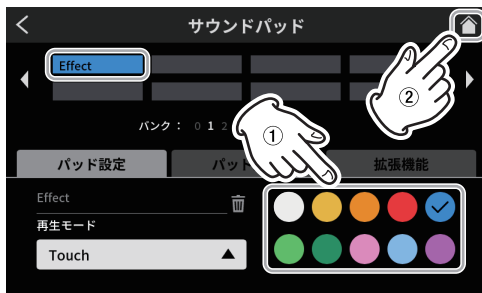
拡張機能画面

メモ

拡張機能でエフェクトを設定したパッドの再生モードは、「Touch」に固定されます。

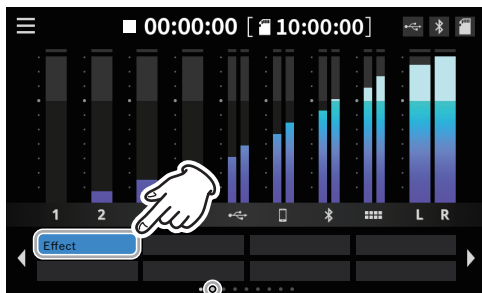
第7章 サウンドパッドを使用する

8. パッド設定画面で、好みのパッド色を選択し、画面右上のホームアイコン  をタップして、ホーム画面に戻ります。



パッド設定画面

9. ホーム画面で、SOUND PAD ボタン (12) のパッド 1 のボタンを押します。
ボタンを押している間、マイク入力にエフェクトがかかります。



ホーム画面

サウンドパッドのエフェクト機能を削除する

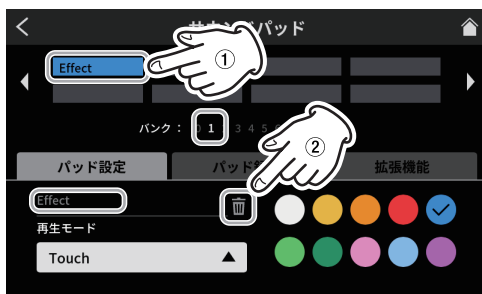
サウンドパッドに設定したエフェクト機能を以下の手順で、削除します。
ここでは、例としてバンク 1 に登録したエフェクト機能を削除する手順を記載します。

1. サウンドパッド画面を開き、パッド設定画面からバンク 1 に移動します。




パッド設定画面

2. バンク 1 の画面を開いたら、パッド 1 をタップします。



パッド設定画面

- 音源ファイル名の表示欄に「Effect」と表示します。
- ゴミ箱アイコン  をタップすると、登録したエフェクト機能を削除します。

サウンドパッドに録音して登録する

サウンドパッドの音源を本機で、録音することができます。
(録音される音声は、本機の 2MIX 音声です。)

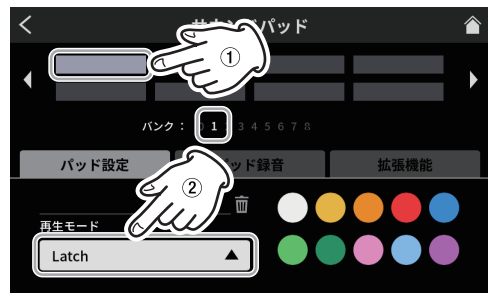
ここでは、例としてバンク 1 のパッド 1 に録音して、登録するまでの手順を記載します。

1. SD カードをセットします。
2. 各フェーダーなどを調整して、パッドに録音したい音声のミックスが聴こえている状態にします。
3. サウンドパッド画面を開き、パッド設定画面からバンク 1 に移動します。



パッド設定画面

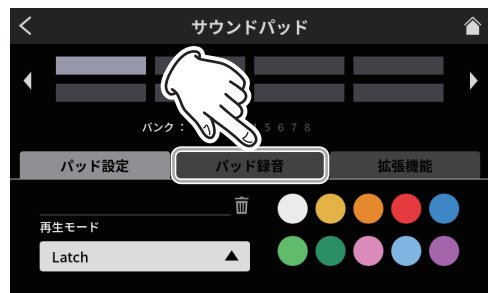
4. バンク 1 の画面を開いたら、パッド 1 をタップします。



パッド設定画面

- 必要に応じて、サウンドパッドの再生方法を、サウンドパッド画面の「再生モード」から選択してください。

5. 次に「パッド録音」タブをタップして、パッド録音タブを開きます。



パッド設定画面

6. 「● 録音開始」ボタンをタップすると録音を開始します。



パッド録音開始画面

第7章 サウンドパッドを使用する

7. 録音中は、「■ 録音停止」ボタンに切り換わります。



パッド録音停止画面

8. 「■ 録音停止」ボタンを押して、録音を終了します。
9. 次に、リネーム画面が開きます。
仮の名称が表示されますので、必要に応じてスクリーンキーボードから新しい名前を入力します。



リネーム画面

10. 完了したら、スクリーンキーボードの「決定」をタップして、確定させます。
11. バンク 1-パッド 1 に「PAD11_001」が登録され、パッド録音画面に戻ります。



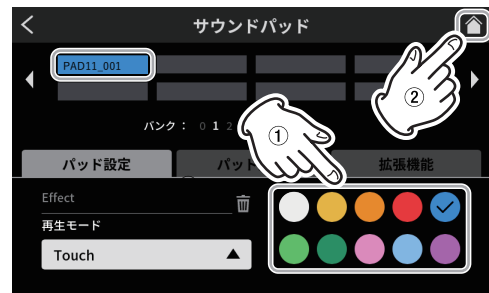
パッド録音画面

- これでバンク 1-パッド 1 に、録音した音声に登録されました。
12. 次に、「パッド設定」タブをタップして、パッド設定画面に戻ります。



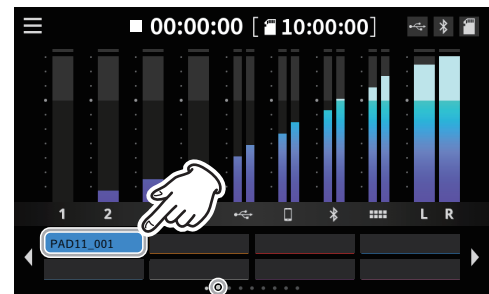
パッド録音画面

13. パッド設定画面で、お好みのパッド色を選択し、画面右上のホームアイコンをタップして、ホーム画面に戻ります。



パッド設定画面

14. ホーム画面で、SOUND PAD ボタン (12) のパッド 1 のボタンを押すと、パッド録音画面で録音した音声、再生されます。



ホーム画面

メモ

再生音が聞こえない場合、サウンドパッドのフェーダーを調整してください。

第8章 タッチスクリーンの機能

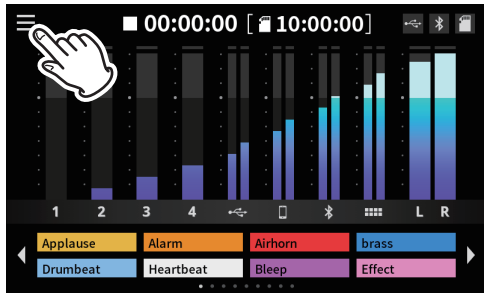
各機能の説明

メニュー画面

ホーム画面のメニューアイコンをタップするとメニュー画面を表示します。

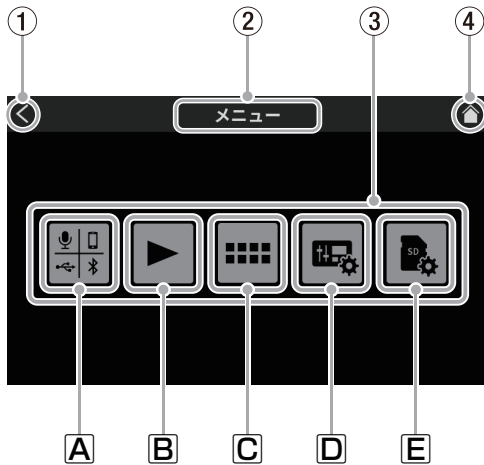
この画面では、アイコンをタップして、各機能の操作や設定が行えます。

1. ホーム画面のメニューアイコン をタップして、メニュー画面を開きます。



ホーム画面

2. メニュー画面が開きます。

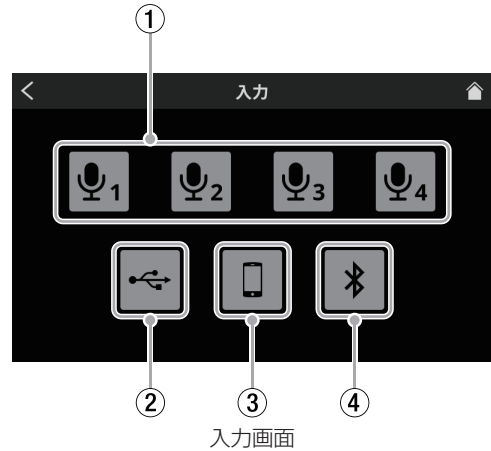


メニュー画面

- ① **< アイコン**
このアイコンをタップして、現在の画面を表示する前に表示していた画面に戻ります。
- ② **機能名表示**
現在表示している画面の機能名を表示します。
- ③ **機能アイコン**
 - A 入力
入力画面 (28 ページ) を表示します。
 - B 再生
ポッドキャストの再生画面 (34 ページ) を表示します。
 - C サウンドパッド
サウンドパッドの設定画面 (35 ページ) を表示します。
 - D 本体設定
本機の各種設定画面 (36 ページ) を表示します。
 - E SD 設定
SDカードの設定画面 (38 ページ) を表示します。
- ④ **ホームアイコン**
このアイコンをタップすると、ホーム画面を表示します。

A 入力選択

入力アイコン をタップして、入力画面を開きます。



入力画面

① マイク設定

マイクアイコン - をタップすると、レベル画面を表示します。

(ここでは、MIC INPUT 1 の調整方法を例とします。)



レベル画面

(例: MIC INPUT 1 端子)

a マイク入力レベル

スライダーのカーソルで、レベルを調整できます。

(大音量や小音量にならないように、レベルメーターのオレンジ部分の範囲内に、マイク音量のピークを調整してください。)

b コンデンサー / ダイナミック選択 (マイクタイプ選択)

MIC INPUT 1-4 端子 (25) に接続するマイクのタイプを「ダイナミック (初期値)」、または「コンデンサー」から選択します。

メモ

「コンデンサー」を選択した MIC 入力は、ホーム画面の入力チャンネルのラベル表示 (9) の CH 番号 (1-4) の横に赤丸を表示します。

注意

「コンデンサー」を選択すると、選択した MIC 入力に +48V を供給します。また、コンデンサーマイクを取り外す際は、一度「ダイナミック」を選択し、+48V をオフにしてください。(ダイナミックマイクを「コンデンサー」を選択した MIC INPUT 1-4 端子 (25) に接続すると、破損する可能性があります。)

c 前面 / 背面入力切り換え (MIC INPUT 1 のみ対応)

PHONES (TRRS) 端子 (11) に接続するヘッドセットのマイク入力信号をチャンネル 1 入力として設定する際に、「前面」を選択します。(MIC INPUT 2-4 は除く) 「背面 (初期値)」を選択すると、MIC INPUT 1 端子 (25) に切り換わります。

④ ボイス設定

ボイス設定画面は、2画面構成になっています。
(画面下の「>」ボタンをタップすると、ボイス設定-2画面に切り換わります。)
タップすると最初にボイス設定画面-1を開きます。




ボイス設定-1画面




ボイス設定-2画面
(例: MIC INPUT 1 端子)


① トーンスイッチ

タップするとトーン設定を以下から選択できます。

- 深め : 低音域が強調され、深みがある音色になります。
- 中程度 : 中音域が強調されます。
- 明るめ : 高音域が強調され、明るい音色になります。
- マニュアル : トーンの詳細な調整が可能です。
タップで設定アイコン  を表示します。(*)




- 設定アイコン  は、他のアイコンをタップすると消えます。


* 設定アイコン  をタップすると、トーンマニュアル設定画面(29ページ)を開きます。


② コンプレッサースイッチ

タップするとコンプレッサー設定を以下から選択できます。

- ソフト : 音の大きい部分を自然に押さえ込みます。
- ハード : 全体的に小さく押さえ込み、レベルを均一に揃えます。
- マニュアル : コンプレッサーの詳細な調整が可能です。
タップで設定アイコン  を表示します。(*)




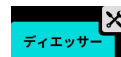
- 設定アイコン  は、他のアイコンをタップすると消えます。


* 設定アイコン  をタップすると、コンプレッサーマニュアル設定画面(30ページ)を開きます。


⑤ プロセッシングスイッチ

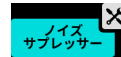
タップするとプロセッシング設定を以下から選択できます。


- ディエッサー : 高周波数の耳障りな歯擦音を調整します。
タップで設定アイコン  を表示します。(*2)




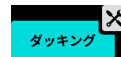
- 設定アイコン  は、もう一度アイコンをタップすると消えます。


- ノイズ サプレッサー : ノイズを除去する範囲を調整できます。
タップで設定アイコン  を表示します。(*2)




- 設定アイコン  は、もう一度アイコンをタップすると消えます。

- ダッキング (*1) : MIC INPUT1 に入力信号がある場合に、他の信号レベルを下げて、MIC INPUT1 をダッキング調整後の内容で、出力します。
タップで設定アイコン  を表示します。(*2)



- 設定アイコン  は、もう一度アイコンをタップすると消えます。

*1 MIC INPUT1 のみ対応。

*2 設定アイコン  で、より詳細な調整が可能になります。
タップすると、下記の各設定画面が開きます。

- ディエッサーマニュアル設定画面(30ページ)
- ノイズサプレッサー設定画面(30ページ)
- ダッキングマニュアル設定画面(31ページ)

● トーンマニュアル設定

トーンマニュアル設定画面は、2画面構成になっています。
(画面下の「>」ボタンをタップすると、トーンマニュアル設定-2画面(エキサイター)に切り換わります。)
最初にトーンマニュアル設定-1画面を表示します。

- トーンマニュアル設定-1画面



トーンマニュアル設定-1画面

- ハイシェルフ / ローシェルフ切り換え
ハイシェルフ(高域)、またはローシェルフ(低域)をタップして選択します。

- リセット
タップすると、調整した内容が初期値に戻ります。

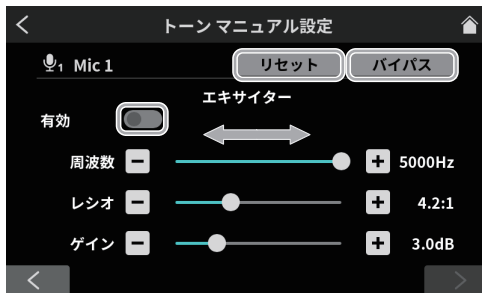
- バイパス
タップすると、トーン調整をバイパスします。
下記の調整値をスライダーのカーソル移動と[-]/[+]ボタンで、レベル調整できます。

- 周波数
トーン設定のハイシェルフ(高域)、またはローシェルフ(低域)を切り換えて、各々の周波数を設定します。
- ゲイン
MIC INPUT の入力レベルを調整します。

第8章 タッチスクリーンの機能

トーンマニュアル設定 -1 画面の設定が完了したら、画面下の「>」ボタンをタップして、トーンマニュアル設定 -2 画面 (エキサイター) を表示させます。

- トーンマニュアル設定 -2 画面 (エキサイター)



トーンマニュアル設定 -2 画面 (エキサイター)

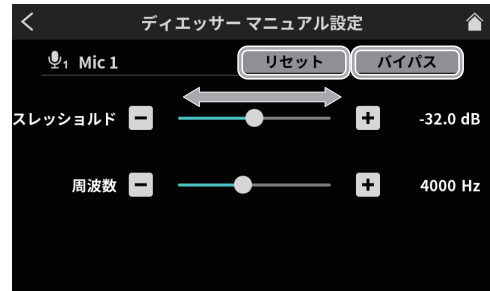
- リセット
タップすると、調整した内容が初期値に戻ります。
- バイパス
タップすると、トーン調整をバイパスします。
- 有効スイッチ
スイッチをタップすると、調整した内容が Exciter 調整に反映されます。
下記の調整値をスライダーのカーソル移動と [-]/[+] ボタンで、レベル調整できます。
- 周波数
トーン設定のハイシェルフ (高域)、またはローシェルフ (低域) を切り換えて、各々の周波数を設定します。
- レシオ
周波数比を設定します。
- ゲイン
入力のレベルを調整します。
- コンプレッサーマニュアル設定
コンプレッサーマニュアル設定画面を表示します。



コンプレッサーマニュアル設定画面

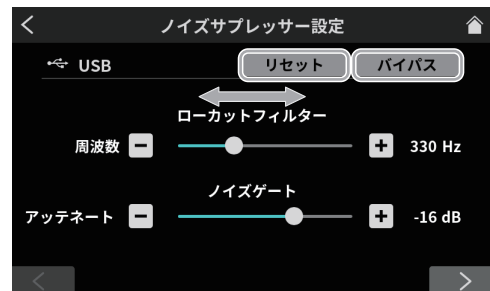
- リセット
タップすると、調整した内容が初期値に戻ります。
- バイパス
タップすると、コンプレッサー調整をバイパスします。
下記の調整値をスライダーのカーソル移動と [-]/[+] ボタンで、レベル調整できます。
- スレッシュホールド
圧縮の基準値を設定します。
- レシオ
圧縮比を設定します。
- アタック
圧縮を開始する時間を調整します。
- リリース
圧縮を終了する時間を調整します。
- ゲイン
MIC INPUT の入力レベルを調整します。

- ディエッサーマニュアル設定 (MIC)
ディエッサーマニュアル設定画面を表示します。



ディエッサーマニュアル設定画面

- リセット
タップすると、調整した内容が初期値に戻ります。
- バイパス
タップすると、ディエッサー調整をバイパスします。
下記の調整値をスライダーのカーソル移動と [-]/[+] ボタンで、レベル調整できます。
- スレッシュホールド
入力の基準値設定
- 周波数
歯擦音を調整する周波数を設定します。
- ノイズサプレッサー設定 (MIC)
ノイズサプレッサー設定画面は、2 画面構成になっています。(画面下の「>」ボタンをタップすると、ノイズサプレッサー設定 -2 画面に切り換わります。) 最初にノイズサプレッサー設定 -1 画面を表示します。
- ノイズサプレッサー設定 -1 画面では、以下の設定が行えます。

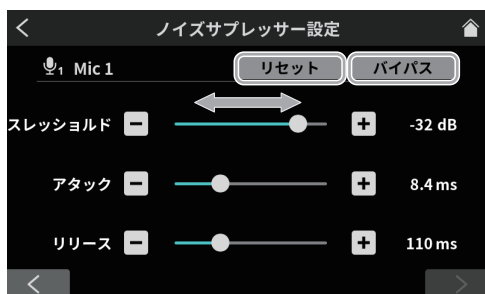


ノイズサプレッサー設定 -1 画面

- リセット
タップすると、調整した内容が初期値に戻ります。
- バイパス
タップすると、ノイズサプレッサーをバイパスします。
下記の調整値をスライダーのカーソル移動と [-]/[+] ボタンで、レベル調整できます。
- ローカットフィルター：周波数調整
ノイズを除去する低域の周波数設定
- ノイズゲート：アッテネート
残響音ノイズを絞るレベル値設定

ノイズサプレッサー設定-1画面の設定が完了したら、画面下の「>」ボタンをタップして、ノイズサプレッサー設定-2画面を表示させます。

- ノイズサプレッサー設定-2画面では、以下の設定が行えます。

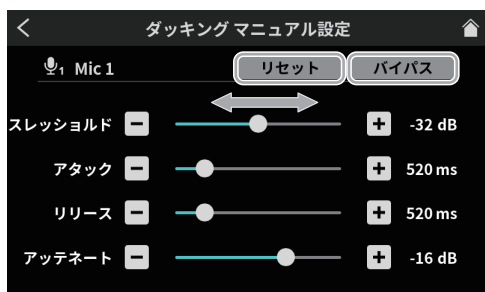


ノイズサプレッサー設定-2画面

- リセット
タップすると、調整した内容が初期値に戻ります。
- バイパス
タップすると、ノイズサプレッサーをバイパスします。下記の調整値をスライダーのカーソル移動と[-]/[+]ボタンで、レベル調整できます。
- スレッシュホールド
ノイズレベルの基準値を設定します。
- アタック
ノイズ除去を開始する時間を調整します。
- リリース
ノイズ除去を終了する時間を調整します。
- ダッキングマニュアル設定 (MIC)
ダッキングマニュアル設定画面を表示します。

注意

ダッキング機能は、MIC INPUT1のみ対応しています。MIC INPUT2-4には、搭載されていません。



ダッキングマニュアル設定画面

- リセット
タップすると、調整した内容が初期値に戻ります。
- バイパス
タップすると、ダッキング調整をバイパスします。下記の調整値をスライダーのカーソル移動と[-]/[+]ボタンで、レベル調整できます。
- スレッシュホールド
MIC INPUT1の入力レベルを設定します。
- アタック
MIC INPUT1のダッキングを開始する時間を調整します。
- リリース
MIC INPUT1のダッキングを終了する時間を調整します。
- アッテネート
MIC INPUT1以外の信号レベルを絞る値を調整します。

⑨ エフェクト設定

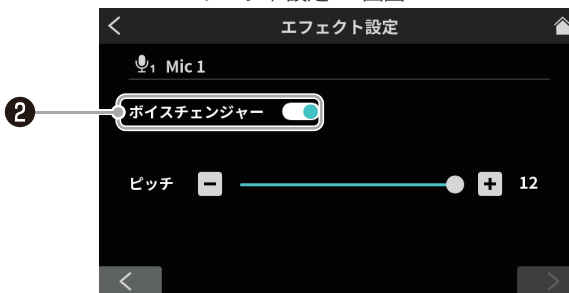
タップすると、エフェクト設定画面を開く前に下記の確認メッセージを表示しますので、「OK」をタップし、メッセージを閉じてください。



「OK」をタップすると、エフェクト設定-1画面を開きます。エフェクト設定画面は、2画面構成になっています。(画面下の「>」ボタンをタップすると、エフェクト設定-2画面に切り換わります。)



エフェクト設定-1画面




エフェクト設定-2画面

① リバーブスイッチ


タップすると確認メッセージを表示しますので、確認したら「OK」をタップし、メッセージを閉じてください。




「OK」をタップすると、スイッチがオンになり、リバーブ設定を以下から選択できます。

- 小 : もっとも反射音や残響音が少なくなります。
- 中 (初期値): 小と大の間になります。
- 大 : もっとも反射音や残響音が大きくなります。
- ドライ / ウェット : スライダーのカーソルを移動させて、リバーブ効果の強弱を調整します。
- マニュアル : リバーブの詳細な調整が可能です。タップで設定アイコン  を表示します。(*)



- 設定アイコン  は、他のアイコンをタップすると消えます。

* 設定アイコン  をタップすると、リバーブマニュアル設定画面 (32 ページ) を開きます。

第8章 タッチスクリーンの機能

② ボイスチェンジャースイッチ

タップすると確認メッセージを表示しますので、確認したら「OK」をタップし、メッセージを閉じてください。



「OK」をタップすると、スイッチがオンになり、ボイスチェンジャー設定を行えます。

ボイスチェンジャー機能は、音声をピッチ調整で、低音や高音に変換が行えます。

スライダーのカーソル移動と[-]/[+]ボタンで、音声を調整できます。

● リバースマニュアル設定



リバースマニュアル設定画面

リバースマニュアル設定の各アイコンをタップして、選択するとアイコンがハイライト表示に変わり、その設定で動作します。

● ルームタイプ選択

希望するルームタイプを以下からタップして、選択できます。

- ホール : コンサートホールのような音の響き
- ルーム : 部屋の中のような音の響き
- ライブ : ライブ会場のような音の響き
- スタジオ : スタジオ内のような音の響き
- プレート : プレート式リバーブ装置のような響き

● リセット

タップすると、調整した内容が初期値に戻ります。

● バイパス

タップすると、リバーブ効果をバイパスします。

下記の調整値をスライダーのカーソル移動と[-]/[+]ボタンで、レベル調整できます。

● リバーブタイム

反射音や残響音を出力している時間を調整します。値が大きいほど、残響音が長く持続します。

● プリディレイ

反射音、残響音が始まるまでの遅延時間を調整します。値が大きいほど、広い空間の反射音となります。

● ディフュージョン

反射音や残響音を拡散する密度、広がり調整します。

② USB 設定

アイコンをタップすると、レベル画面を開きます。



レベル画面

① USB 入力レベル

大音量や小音量にならないように、レベルメーターのオレンジ部分の範囲内に、接続しているUSB接続した機器側でピークの調整を行ってください。

② ボイス設定

タップすると、ボイス設定画面を開きます。

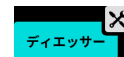


ボイス設定画面

① プロセッシングスイッチ

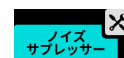
タップすると、プロセッシング設定を以下から選択できます。

- ディエッサー : 高周波数の耳障りな歯擦音を調整します。タップで設定アイコン を表示します。(*)



- 設定アイコン は、もう一度アイコンをタップすると消えます。

- ノイズサブレッサー : ノイズを除去する範囲を調整できます。タップで設定アイコン を表示します。(*)



- 設定アイコン は、もう一度アイコンをタップすると消えます。

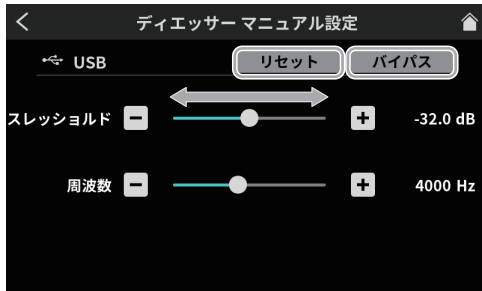
* 設定アイコン をタップすると、ディエッサーマニュアル設定 / ノイズサブレッサー設定画面 (33 ページ) が開きます。

② シーン

タップすると、シーン設定を以下から選択できます。

- オフ : 音声処理を行いません。
- トーク : トークで聞き取りやすい声の粒がそろった音声になります。
- ミュージック : 明瞭な音楽再生が行えます。

- **ディエッサーマニュアル設定 (USB)**
ディエッサーマニュアル設定画面を表示します。



ディエッサーマニュアル設定画面

- **リセット**
タップすると、調整した内容が初期値に戻ります。
- **バイパス**
タップすると、ディエッサー調整をバイパスします。
下記の調整値をスライダーのカーソル移動と[-]/[+]ボタンで、レベル調整できます。
- **スレッシュヨルド**
入力の基準値設定
- **周波数**
歯擦音を調整する周波数を設定します。
- **ノイズサプレッサー設定 (USB)**
ノイズサプレッサー設定画面は、2画面構成になっています。
(画面下の「>」ボタンをタップすると、ノイズサプレッサー設定-2画面に切り換わりします。)
最初にノイズサプレッサー設定-1画面を表示します。
- ノイズサプレッサー設定-1画面では、以下の設定が行えます。

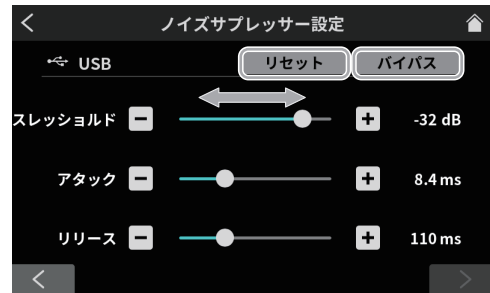


ノイズサプレッサー設定-1画面

- **リセット**
タップすると、調整した内容が初期値に戻ります。
- **バイパス**
タップすると、ノイズサプレッサーをバイパスします。
下記の調整値をスライダーのカーソル移動と[-]/[+]ボタンで、レベル調整できます。
- **ローカットフィルター**：周波数調整
ノイズを除去する低域の周波数設定
- **ノイズゲート**：アッテネート
残響音ノイズを絞るレベル値設定

ノイズサプレッサー設定-1画面の設定が完了したら、画面下の「>」ボタンをタップして、ノイズサプレッサー設定-2画面を表示します。

- ノイズサプレッサー設定-2画面では、以下の設定が行えます。



ノイズサプレッサー設定-2画面

- **リセット**
タップすると、調整した内容が初期値に戻ります。
- **バイパス**
タップすると、ノイズサプレッサーをバイパスします。
下記の調整値をスライダーのカーソル移動と[-]/[+]ボタンで、効果の調整ができます。
- **スレッシュヨルド**
ノイズレベルの基準値を設定します。
- **アタック**
ノイズ除去を開始する時間を調整します。
- **リリース**
ノイズ除去を終了する時間を調整します。

第8章 タッチスクリーンの機能

③ スマートフォン設定

スマートフォンアイコン をタップすると、レベル画面を開きます。



レベル画面

① スマートフォン入力レベル

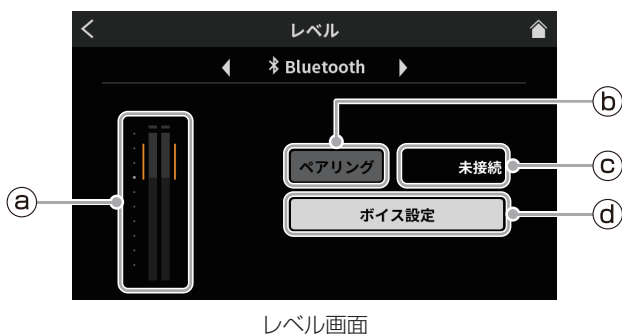
大音量や小音量にならないように、レベルメーターのオレンジ部分の範囲内に、接続しているスマートフォン側でピークの調整を行ってください。

② ボイス設定

ボイス設定画面については、32 ページ [② USB 設定] の [⑥ ボイス設定] を参照してください。

④ Bluetooth 設定

アイコンをタップすると、レベル画面を表示します。



レベル画面

① Bluetooth 入力レベル

大音量や小音量にならないように、レベルメーターのオレンジ部分の範囲内に、接続している Bluetooth 機器側でピークの調整を行ってください。

② ペアリング

タップすると、ペアリングを開始します。Bluetooth 機器側でペアリング設定を行ってください。(12 ページ [Bluetooth 機器と接続する] を参照)

- 本機のデバイス名 : TASCAM Mixcast

③ 接続状態表示

- Bluetooth 機器と未接続 : 「未接続」
- Bluetooth 機器を検索中 : 「接続中 ...」
- Bluetooth 機器と接続中 : 「接続済み」

④ ボイス設定

ボイス設定画面については、32 ページ [② USB 設定] の [⑥ ボイス設定] を参照してください。

⑤ 再生設定

再生アイコン をタップすると、ポッドキャストの再生画面を表示します。



再生画面

① ポッドキャストリスト

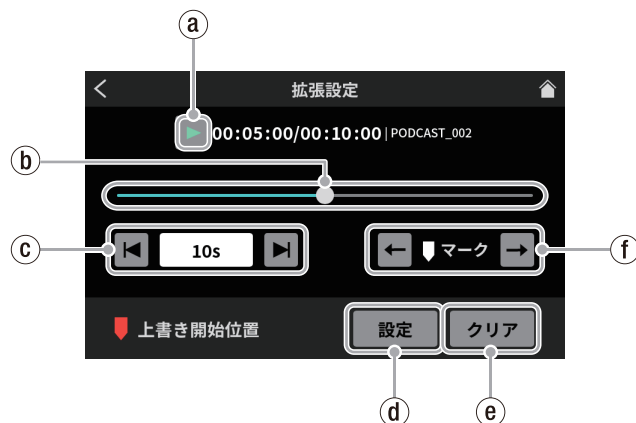
録音済みのポッドキャスト名を表示します。タップして目的のポッドキャストを選択できます。

② 再生アイコン

タップすると、選択したポッドキャストを再生します。再生中は、再生アイコン「▶」が一時停止中アイコン「||」に変わります。再生中に一時停止アイコン「||」をタップすると、再生が一時停止します。

③ 拡張設定ボタン

タップすると下記の拡張設定画面を開きます。選択したポッドキャストに任意の場所から、上書き録音を行えます。



拡張設定画面

① 再生アイコン

タップすると、選択したポッドキャストを再生します。再生中は、再生アイコン「▶」が一時停止中アイコン「||」に変わります。

② タイムラインとカーソル

タイムライン上をスライダーのカーソル移動で、任意の場所に移動できます。

③ タイムジャンプ

時間表示のウィンドウをタップすると、前後に移動するジャンプ時間を表示しますので、下記から選択します。

- 1s、5s、10s(初期値)、30s

ジャンプ時間を選択後、アイコン をタップしながら、上書き録音する場所を探索できます。

④ 設定ボタン

設定ボタンを押すと、確認メッセージが表示されます。「OK」をタップすると設定した上書き開始位置にマークを表示します。



拡張設定画面

⑤ クリアボタン

設定ボタンで表示したマーク（上書き開始位置）を消します。

⑥ マークジャンプ

マークポイント(*)を登録したポッドキャストを再生する場合、アイコン ←/→ をタップして、カーソルをタイムライン上のマークポイントに、直接移動できます。



拡張設定画面

* マークポイントについては、20 ページ [再生中にマークポイントを登録する] を参照

④ リネームアイコン


タップすると、下記のスクリーンキーボードを表示します。スクリーンキーボードからポッドキャスト名を変更できます。




リネーム画面

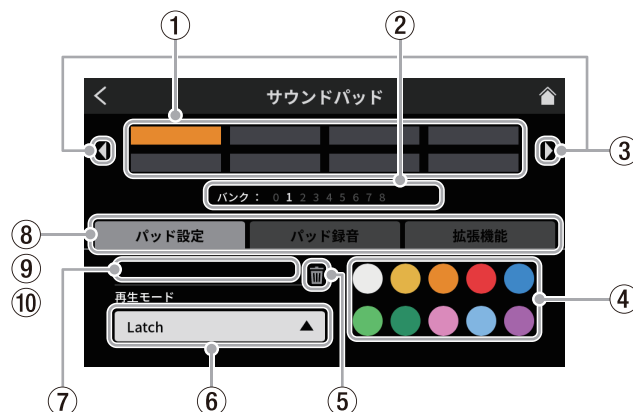
- キーボード上の「Aa」をタップする毎に大/小文字、数字/記号を切り換えます。
- 入力完了後、キーボード上の「決定」をタップします。
- 入力を間違えたときは、「削除」で一文字ずつ、消去できます。

⑤ ゴミ箱アイコン

ゴミ箱アイコン  をタップすると、選択中のポッドキャストを削除します。

② サウンドパッド設定

サウンドパッドアイコン  をタップすると、専用ソフトウェアで割り当てられたサウンドパッド設定を表示します。



サウンドパッド画面

① パッド

パッドをタップして、割り当てられた機能確認や変更ができます。本体の SOUND PAD ボタン (⑫) とリンクしています。

② サウンドパッドのバンク表示

現在選択中のバンクが、どのバンク番号にあるかハイライトして表示します。

③ サウンドパッドのバンク切り換えアイコン

- ◀ アイコンをタップすると、前のバンクに切り換えます。
- ▶ アイコンをタップすると、次のバンクに切り換えます。

④ パッド色設定

選択中のパッドの色を変更できます。

⑤ 削除アイコン

アイコンをタップすると、選択中のパッドに割り当てられた設定や機能が解除されます。

⑥ 再生モード

選択中のパッドの効果音やBGMの出力方法を表示します。また、出力方法を選択して、変更することができます。ボタンをタップして、以下から再生モードを選択します。

● Latch	1 回押すと再生し、もう一度押すと停止します。再度、押すと先頭から再生し、何も操作しなければ、ファイルの最後まで再生し、停止します。
● Pause	1 回押すと再生し、もう一度押すと一時停止します。再度、押すと続きから再生し、何も操作しなければ、ファイルの最後まで再生し、停止します。
● RePlay	1 回押すと再生し、もう一度押すと再び、先頭から再生します。何も操作しなければ、ファイルの最後まで再生し、停止します。
● One Shot	1 回押すと再生し、ファイルの最後まで再生します。途中で再生を止めるには、パッドボタンを長押しします。
● Repeat	1 回押すと再生し、もう一度押すと停止します。再度、押すと先頭から再生し、何も操作しなければ、繰り返し再生を行います。
● Touch	押し続けている間だけ、再生します。

⑦ 音源ファイル名

パッドに表示している音源のファイル名を表示します。

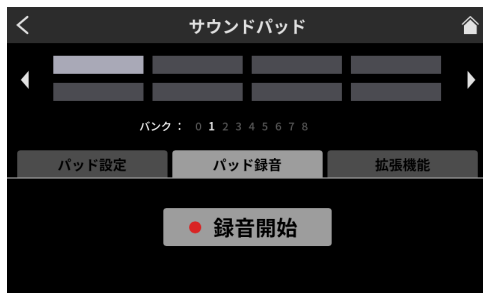
⑧ パッド設定

- お好みの色をパッド色設定 (④) から選択して、変更することができます。(本体の SOUND PAD ボタン (⑫) も対応する色で点灯します。)
- 効果音やBGMの出力方法を再生モードボタン (⑥) で設定できます。

第8章 タッチスクリーンの機能

⑨ パッド録音

各入力信号から効果音やBGMの取り込みを行います。
録音したい入力信号のチャンネルフェーダー (13) を操作して、「● 録音開始」ボタンをタップすると、録音を開始します。



パッド録音開始画面

- 録音中は、「■ 録音停止」と表示します。タップすると、録音を停止します。



パッド録音停止画面

⑩ パッド拡張機能

マイク設定のエフェクト設定で、調整した内容を反映します。
(25 ページ [サウンドパッドにエフェクトを登録する] を参照)



パッド拡張画面

- なし
何も設定しません。
- ピー音 (他の入力は消えます)
ピー音を設定します。
例) 任意のパッドボタンにピー音を設定して、ボタンを押している間、収録中に録音したくない音声をピー音でかき消すことができます。

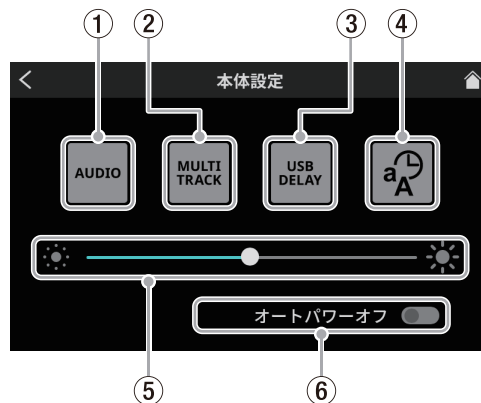
メモ

ピー音の音量は、一定の音量で出力されます。
(パッドのチャンネルフェーダーと連動していません。)

- エフェクト
28 ページ [① マイク設定] の、エフェクト設定で調整した内容を各パッドボタンに設定できます。
例) 収録中にマイク入力1のエフェクト設定からボイスチェンジャー機能で調整した音声を、任意のパッドボタンに設定して、そのボタンを押している間だけ、その音声を流すことができます。


□ 本体設定

本体設定アイコン  をタップすると、下記の各種設定が行えます。



本体設定画面

① AUDIO

AUDIO アイコン  をタップすると、オーディオ設定画面に切り換わります。



オーディオ設定画面

- USB ミックスマイナス
選択肢：オン / オフ (初期値)
この機能をオンにすると、スマートフォンやパソコンを使用して、電話インタビューやリモート収録する際に、収録中の音声の回り込みを防いで、相手先にエコーが発生しないようにします。
- オートミキサー
選択肢：オン (初期値) / オフ
この機能をオンにすると、各入力のバランスを維持しながら、出力される音量を一定に保つように自動調整を行います。
- ループ防止
選択肢：オン / オフ (初期値)
この機能をオンにすると、マイクとスピーカー音声の回り込みによって生じるハウリング (フィードバック) を抑えるために、入力が飽和したチャンネルのミュートスイッチが自動的に入ります。
- ラインレベル出力
選択肢：オン / オフ (初期値)
この機能をオンにすると、MONITOR OUT 端子、および LINE OUT 端子の出力レベルが規定レベルに固定され、トップパネルの MONITOR OUT つまみ (5) が無効になります。本機の電源をオフにすると設定は、オフになります。
- ソロモード
選択肢：Pre-Fader / Post-Fader (初期値)
Pre-Fader を選択した場合は、フェーダー調整およびミュートの影響を受けない入力音声を聴くことができます。

② MULTI TRACK

MULTI TRACK アイコン  をタップすると、マルチトラック画面に切り換わります。




マルチトラック画面

- SD マルチ録音
選択肢：オン (初期値) / オフ
オンのときには、全ての入力チャンネルと 2MIX を合わせた 14 チャンネルが、録音されます。また、オフにすると 2MIX のみ録音されます。
- エフェクトバイパス
選択肢：オン / オフ (初期値)
この機能をオンにすると、プリフェーダーの音声が多トラックに記録されます。ただし、2MIX 音声はエフェクトも含めたポストフェーダーの音声で記録されます。

メモ

この設定は USB に出力される音声にも適用されます。

③ USB DELAY


USB DELAY アイコン  をタップすると、USB ディレイ画面に切り換わります。

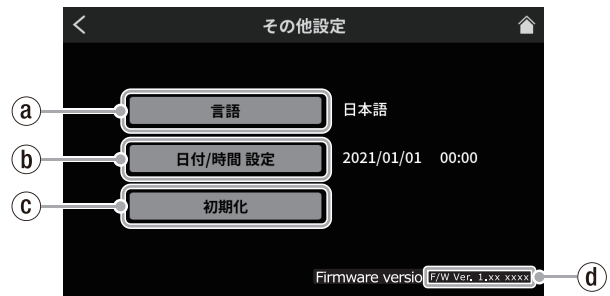


USB ディレイ画面

- USB ディレイ時間をスライダーのカーソル移動と [-] / [+] ボタンで、調整ができます。(初期値は、「0」)
- 設定した時間だけ 2MIX 信号にディレイがかかります。
- USB ディレイ機能について
インターネットライブ配信において、カメラ映像と音声を別の機器から取り込んだ場合、配信する動画では映像と音声にズレが生じることがあります。
音声より映像が遅れる場合、USB 出力音声に意図的な遅延 (オフセットディレイ) を加えることで、映像と音声のズレを修正することができます。

④ その他設定

その他設定アイコン  をタップすると、その他設定画面に切り換わります。



その他設定画面

a 言語

メニューやメッセージに使用する言語を選択します。
選択肢

English	: 英語で表示 (初期値)
日本語	: 日本語で表示
Français	: フランス語で表示
Español	: スペイン語で表示
Deutsch	: ドイツ語で表示
Italiano	: イタリア語で表示
Русский язык	: ロシア語で表示
中文	: 中国語で表示
한글	: 韓国語で表示

b 日付 / 時間 設定

タップすると、下記の日時設定画面が開きます。



日時設定画面

現在の日付時刻を西暦 (末尾 2 桁) / 月 / 日、時 / 分の項目で、上下にスワイプして選択してください。
入力した内容を確認後、「OK」ボタンをタップして決定します。

c 初期化 (工場出荷設定)

タップすると、本機のメモリーに保存されている各設定情報を工場出荷時の状態に戻すことができます。
ボタンをタップすると、確認メッセージが表示されます。「OK」をタップすると初期化を開始します。

d ファームウェアバージョン

現在のファームウェアバージョンを表示します。

第8章 タッチスクリーンの機能

⑤ 輝度調整

スライダーのカーソルを左右に移動すると、タッチスクリーンと本体のLED表示の明るさが変わります。

- カーソルを左 (☾ 側) に移動させると暗くなり、右 (☀ 側) に移動すると明るくなります。

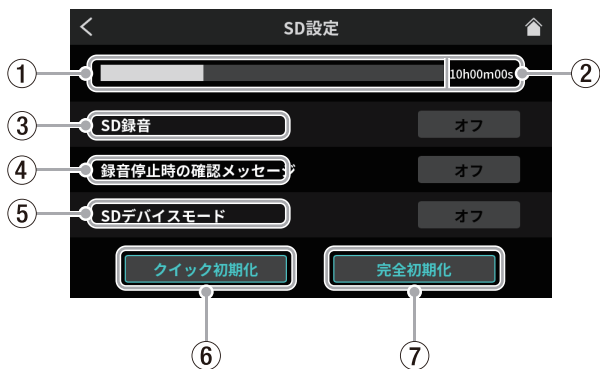
⑥ オートパワーオフ

オートパワーオフスイッチをオンにすると、本機に入力信号 (*) が、検出されない状態 (-60 dBFS 以下の状態) で、何も操作しない状態が30分間続くと、自動的に電源がオフになります。

- 通常はオートパワーオフスイッチをオフで、ご使用ください。
- * Bluetooth 接続、または USB 接続中でも音声入力がない場合、上記の時間で自動的に電源がオフになります。

E SD 設定

SD 設定アイコン  をタップすると、下記の各種設定が行えます。



SD 設定画面

① SD カード使用量表示

SD カードの使用容量をバググラフで表示します。

② SD カード録音時間表示

SD カードに録音できる残り時間を表示します。

③ SD 録音

選択肢：オン (初期値) / オフ

- この機能がオンのときには、ポッドキャストを SD カードに録音します。オフのときには、ポッドキャストは SD カードに録音されません。
- 本機と接続された専用ソフトウェアだけに録音したいときは、この機能をオフにしてください。

④ 録音停止時の確認メッセージ

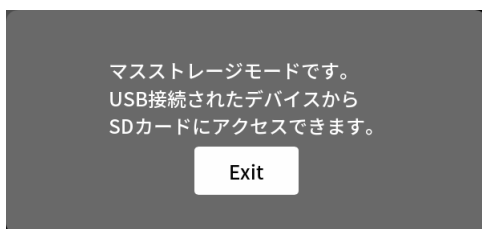
選択肢：オン (初期値) / オフ

この機能がオンのときには、ポッドキャストの録音を停止する際に、確認のポップアップメッセージを表示します。

⑤ SD デバイスモード

選択肢：オン / オフ (初期値)

この機能をオンにすると、本機の SD カードを USB 接続された外部機器で、USB マスストレージとして使用できます。ボタンをタップすると、下記メッセージを表示します。



注意

データの損失を防ぐため、本機から SD カードを取り出したり「Exit」ボタンをタップする前に、パソコン側で指定された手順に従ってメディアの取り外しを行って下さい。

- SD デバイスモードを終了するには、「Exit」をタップします。

メモ

- Android デバイスで、USB マスストレージとして正常に動作しない場合は、本機の SD デバイスモードをオンにしてから Android デバイスに接続してください。
- 接続が完了すると、USB 接続した機器に「Mixcast4」ドライブとして表示されます。
 - Windows OS はエクスプローラー上、Mac OS はデスクトップ上に表示されます。
 - iOS デバイスは、「ファイル」アプリ内に表示します。
- SD デバイスモード中は、本機の録音や再生機能が使用できません。

⑥ クイック初期化

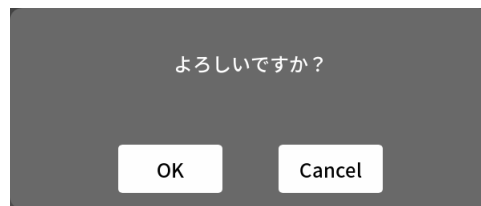
SD カードのクイックフォーマットを実行します。ボタンをタップすると、下記メッセージを表示します。



「OK」をタップして、クイックフォーマットを開始します。

⑦ 完全初期化

SD カードの完全フォーマットを実行します。ボタンをタップすると、下記メッセージを表示します。



「OK」をタップして、完全フォーマットを開始します。

メモ

- クイック初期化、または完全初期化を行うと、SD カード上のデータは、全て消去されます。
- フラッシュメモリを使った SD カードのようなストレージメディアは、書き込みを繰り返すことで書き込み速度が低下する傾向があります。書き込み速度が低下すると、録音に悪影響を及ぼす可能性があります。本機の完全初期化を実行すると、SD カードの書き込み速度が回復します。(*) そのため、下記タイミングで完全初期化を実行することをお勧めします。

- メディア残量がなくなるまで書き込んだ場合
- 定期的 (1 ヶ月程度)
- 大事な録音の前

*: SD カードの状態 (故障・寿命など) により、書き込み速度が回復しない場合もあります。

第9章 エラーメッセージ

以下にエラーの際に表示するポップアップメッセージの一覧表を示します。

本機では、状況に応じてポップアップメッセージが表示されますが、それぞれのメッセージの内容を知りたいとき、および対処方法を知りたいときにこの表をご覧ください。

メッセージ	内容と対処方法
SD カードエラー 交換してください	カードが正常でない可能性があります。 カードを交換してください。
書き込み保護カード 交換してください	SD カードがライトプロテクトされています。 SD カードのライトプロテクトを解除してください。
SD カードが保護されてます	
MBR エラー SD を初期化します。 実行しますか？	SD カードが正常にフォーマットされていないか、SD カードが壊れている可能性があります。SD カードを交換するか、このメッセージが表示されている状態で OK を押すと、フォーマットが実行されます。フォーマットが実行されると SD カード内のデータは、全て消去されます。
フォーマットエラー SD を初期化します。 実行しますか？	
SD カードがありません	SD カードがセットされていません。録音可能な SD カードを挿入してください。
再生ファイルがありません 実行しますか？	ファイルが見つからないか、ファイルが壊れている可能性があります。 対象のファイルを確認してください。
ファイルが見つかりません	
ファイルがありません システムを再構築します 実行しますか？	本機を使用するために必要なシステムファイルがありません。 または、必要なシステムファイルが正常ではありません。 このメッセージが表示されている状態で、OK ボタンを押すとシステムファイルが作られます。
システムファイルエラー システムを再構築します 実行しますか？	
書き込み速度不足です	SD カードへの書き込みが間に合わず、録音を停止しました。 SD カードへの書き込み性能が低下しています。 イレースフォーマットを実行するか、SD カードを交換してください。
書き込みエラー 録音続けます	SD カードへの書き込みが間に合いませんでした。 これにより音声の不連続になり、ノイズが発生します。
ファイル数が総数制限に到達しました	フォルダーとファイルの総数が制限値 (5000 個) を超えました。 不要なフォルダーやファイルを削除するか、パソコンへ移動してください。
SD カード残量がありません	SD カードの残容量がありません。
録音時間の制限に到達しました	録音時間が 24 時間に達したため、録音を停止しました。
ファイル名が不正です	ファイル名が不正、またはファイル名が長すぎます。ファイル名を変更してください。
同名ファイルがあります	同じファイル名のファイルがすでに存在します。ファイル名を変更してください。
SD カードエラーが発生しました FATAL	SD カードを正常に認識できません。SD カードを交換してください。
マーク数が上限に到達しました	マーク数が制限値 (99 個) に達しました。
USB 接続がありません	USB 接続がない状態で、SD REC オフの設定で録音ボタンが押されました。
システムエラー 4	これらのエラーが出た場合は、本体の電源を入れ直してください。 これらのエラーが頻繁に発生する場合は、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご相談ください。
初期化エラー 実行しますか？	
エラーが発生しました	
ファイルエラー発生	
書き込みに失敗しました	
再生エラー	
システムエラー XX FATAL (XX は数字が入ります)	
実行できません	

第 10 章 トラブルシューティング

本機の動作がおかしいときは、修理を依頼する前にもう一度、下記の点検を行ってください。

それでも改善しないときは、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご連絡ください。

電源がオンにならない

- 電源プラグなどがしっかりと差し込まれているか確認してください。

SD カードを認識しない

- SD カードがしっかりと挿入されているか確認してください。
- 本機で対応している SD カードを挿入していますか？対応可能な SD カードかをご確認の上ご使用ください。
- 正常にフォーマットされた SD カードを使用していますか？必要なデータは、パソコンなどでバックアップし、SD カードを再度フォーマットしてください。
- SD カードを挿入していて、途中から本機の操作ができなくなった場合、SD カードの接続に異常が発生しています。SD カードを取り出して、もう一度挿入してください。

音が出ない

- MONITOR OUT つまみや PHONES 1 - 4 つまみ、または各フェーダーが適正なレベルまで上がっていますか？
- 各チャンネルの SOLO ボタン、または MUTE ボタンがオンになっていませんか？
- 各入力端子とマイクや音源側が、正しく接続されていますか？
- 入力レベルの設定や音源側の設定が正しいですか？入力や接続した機器の各設定をもう一度、確認してください。
- MONITOR OUT 端子、または LINE OUT 端子からモニターシステムに正しく接続されていますか？また、モニターシステムが正しく設定されていますか？（12 ページ [録音機器やモニタースピーカーを接続する] を参照）

録音しようとする音が歪んで聴こえる

- 各チャンネルの入力レベルが、適正ですか？あるいは、入力ソースのレベルが高すぎませんか？
- 各入力のボイス設定は、適正ですか？
- 各チャンネルのチャンネルフェーダーや MONITOR OUT つまみを上げすぎていませんか？
- モニターレベルが高すぎて、モニターシステムが歪んでいませんか？

録音できない

- SD カードに十分な空き容量があることを確認してください。
- ポッドキャスト名が「PODCAST_999」に達すると、録音できなくなります。

再生できない

- 本機が対応しているサンプリング周波数 (48kHz) と量子化数 (24 ビット) であるかどうかを確認してください。

雑音が発生する

- 接続ケーブルが接触不良になっていないか、確認してください。
- 本機の近くにテレビ・ラジオやパワーアンプなどの大型トランスを持つ機器があると、本機あるいは周辺機器で雑音が発生することがあります。（取扱説明書の「設置上の注意」を参照）

Bluetooth の音が途切れる、または雑音が発生する

- 無線 LAN や他の Bluetooth 機器、電子レンジなどが近くにありませんか？なるべくそれらの機器から離してご使用ください。
- Bluetooth 機器と本機の距離を近づけてご使用ください。また、Bluetooth 機器や本機の位置を変えてください。
- スマートフォンで接続した機器の設定で、音楽再生以外のアプリケーションが動作している場合は、音が途切れる場合があります。その場合は音楽再生以外のアプリケーションの動作を止めてください。

Bluetooth の接続ができない、あるいは通信が途切れる

- Bluetooth 機器の電源がオンになっているか、Bluetooth の機能がオンになっているか確認してください。
- Bluetooth 機器との距離が離れすぎていませんか？あるいは、間に壁や障害物などでさえぎられていませんか？
- Bluetooth 機器や本機の位置を変えてください。
- 本機の電源をオフにして、再度本機の電源をオンにしてください。
- Bluetooth 機器側の「TASCAM Mixcast」の登録を一度解除したあと、再度ペアリングをしてください。（12 ページ [Bluetooth 機器と接続する] を参照）

Bluetooth のペアリングができない

- 接続したい Bluetooth 機器が A2DP に対応しているか確認してください。
- 接続したい Bluetooth 機器の通信が可能な状態になっているか確認してください。詳しくは、お使いの Bluetooth 機器の取扱説明書をご確認ください。
- 本機と Bluetooth 機器の電源を一度オフにして、再び電源をオンにして、ペアリングを試してください。
- ペアリングをしようとする Bluetooth 機器以外の Bluetooth 機器の電源をオフにしてください。
- Bluetooth 機器側の「TASCAM Mixcast」の登録を一度解除したあと、再度ペアリングをしてください。（12 ページ [Bluetooth 機器と接続する] を参照）

USB 接続でパソコンに認識されない

- 本機は USB1.1 では動作しません、USB2.0 または USB3.0 のポートをご使用ください。
- 本機の接続は USB ハブはご使用にならず、必ずパソコン本体の USB ポートに接続してください。
- 上記の方法で解決しない場合は、パソコン本体の別の USB ポートに接続してください。

USB 接続中にハウリングが発生する

- 本機に入力された音声と、パソコンからの音声をミックスしてパソコンに戻し、それをまた本機に戻す設定にしていると、本機とパソコンの間で音声が増幅され、ハウリングが発生することがあります。DAW などの録音ソフトウェアをご使用の場合は、全てのチャンネルの入力モニターをオフに設定してください。

USB 接続中にノイズや音切れが発生する

製品ご使用時のノイズや音切れにつきましては、パーソナルコンピュータ側の CPU 負荷増大が原因となる場合が多く見受けられます。特に、無線 LAN やウイルス対策ソフトなどがバックグラウンドで動作している場合は、顕著にノイズや音切れが発生します。下記に基本的な対策をご案内しますので、お試しください。

メモ

ご使用環境により、パーソナルコンピュータとの相性問題で正常に動作しない場合もあります。

また、あらゆるコンピュータで問題なくお使いいただける万能的な解決策はないことを予めご理解ください。

● ノイズ・音切れ発生時の確認事項

本機を直接パソコンに USB 接続 (*) します。USB ハブは使用しないでください。

パソコンを再起動してから始めます。

* 本機以外の USB 機器は、デスクトップパソコンの場合、キーボードとマウスだけを残し、他は全て取り外します。ノートパソコンの場合、全て取り外してください。

1. 製品が対応している OS であることを確認します。
OS は、全てのアップデートを終了させ常に最新の状態にしてご利用ください。
2. 製品のファームウェアが最新か確認します。
3. Windows で ASIO ドライバーを使用するソフトウェアで使用している場合は、
ドライバーが最新であることを確認します。
4. Windows の場合は、Windows のサウンド設定 (サウンドコントロールパネル) の「録音」、「再生」とも本機以外のデバイスを無効化します。
5. Windows の場合は、電源設定を確認します。
 - 「USB 設定」の「USB のセレクトティブサスペンドの設定」を「無効」にします。
 - 「プロセッサの電源管理」の「最小のプロセッサの状態」を「100%」にします。
6. バッファサイズを調整します。
初期設定値の 256 から上下 1 ずつ設定します。
ASIO ドライバーを使用するソフトウェアでは、ソフトウェアから Settings Panel を開きます。
7. USB ポート、USB ケーブルを替えます。
パソコンが持っていれば「USB 2.0」端子から接続を試みます。
8. macOS の場合は、NVRAM(または PRAM) リセットと、SMC リセットをお試しください。
 - <https://support.apple.com/ja-jp/HT204063>
 - <https://support.apple.com/ja-jp/HT201295>
9. アンチウイルスソフトなどの常駐ソフトを停止、無線 LAN を「無効」に設定しても発生するかを確認します。

第 11 章 仕様 / 定格

レコーダー部仕様

記録メディア

SD カード (64 MB ~ 2 GB)
SDHC カード (4 GB ~ 32 GB)
SDXC カード (48 GB ~ 512 GB)

録音再生フォーマット

WAV: 48 kHz、24 ビット、2 ch ステレオ / 14 ch Poly
(BWF フォーマット)

録音可能チャンネル数

最大 14 チャンネル (12 チャンネル + 2 ステレオミックス)

アナログオーディオ入力定格

MIC INPUT 1-4 端子

コネクター : XLR/TRS コンボジャックタイプ
XLR : XLR-3-31 (1: GND、2: HOT、3: COLD)
TRS : ϕ 6.3 mm(1/4") TRS 標準ジャック
(Tip: HOT、Ring: COLD、Sleeve: GND)
最大入力レベル : +10 dBu (LEVEL「MIN」時)
規定入力レベル : -10 dBu (LEVEL「MIN」時)
最小入力レベル : -76.5 dBu (LEVEL「MAX」時)
ゲイン幅 : 66.5 dB
入力インピーダンス: 2.1 k Ω

PHONES (TRRS) 1 端子 [CTIA 規格]

コネクター : ϕ 3.5 mm(1/8") 4 極ミニジャック
最大入力レベル : +4 dBV (LEVEL「MIN」時)
規定入力レベル : -16 dBV (LEVEL「MIN」時)
最小入力レベル : -82.5 dBV (LEVEL「MAX」時)
ゲイン幅 : 66.5 dB
入力インピーダンス: 2 k Ω

LINE IN (TRRS) 端子 [CTIA 規格]

コネクター : ϕ 3.5 mm(1/8") 4 極ミニジャック
最大入力レベル : +8 dBV
規定入力レベル : -12 dBV
入力インピーダンス: 12 k Ω

LINE IN L/R (balanced) 端子

コネクター : ϕ 6.3 mm(1/4") TRS 標準ジャック
(Tip: HOT、Ring: COLD、Sleeve: GND)
最大入力レベル : +24 dBu
規定入力レベル : +4 dBu
入力インピーダンス: 11 k Ω

アナログオーディオ出力定格

PHONES 端子 (1 - 4)

コネクター : ϕ 6.3 mm(1/4") ステレオ標準ジャック
最大出力 : 45 mW + 45 mW
(THD + N 0.1% 以下、32 Ω 負荷時)

PHONES (TRRS) 1 端子 [CTIA 規格]

コネクター : ϕ 3.5 mm(1/8") 4 極ミニジャック
● PHONES (TRRS) 1 の出力は PHONES 1 の出力を分岐しています。

LINE OUT (TRRS) 端子 [CTIA 規格]

コネクター : ϕ 3.5 mm(1/8") 4 極ミニジャック
最大出力レベル : -25 dBu
規定出力レベル : -45 dBu
出力インピーダンス: 100 Ω

MONITOR OUT L/R (balanced) 端子

コネクター : ϕ 6.3 mm(1/4") TRS 標準ジャック
(Tip: HOT、Ring: COLD、Sleeve: GND)
最大出力レベル : +20 dBu
規定出力レベル : +0 dBu
出力インピーダンス: 200 Ω

LINE OUT 端子

コネクター : ϕ 3.5 mm(1/8") ステレオミニジャック
最大出力レベル : +6 dBV
規定出力レベル : -14 dBV
出力インピーダンス: 200 Ω

コントロール入出力定格

USB 端子

コネクター : USB Type-C
フォーマット : USB 2.0 HIGH SPEED
USB AUDIO CLASS 2.0
USB MASS STORAGE CLASS

オーディオ性能

マイクアンプ EIN (入力換算雑音)

-125 dBu 以下 (150 Ω 終端、LEVEL「MAX」時)

周波数特性

マイク入力端子 (1-4)
20 Hz - 20 kHz: +0.3 dB / -0.3 dB (JEITA)

S/N 比

101 dB
(マイク入力端子 (1-4)、チャンネルフェーダー [0] 時、
20 kHz SPCL LPF + A-Weight)

歪率

0.003 %
(マイク入力端子 (1-4)、1 kHz サイン波、チャンネルフェー
ダー [0] 時、20 kHz SPCL LPF)

クロストーク

95 dB 以上
注) 測定条件は、JEITA CP-2905B に準じます。

録音時間

録音形式	容量	
	4 GB	8 GB
WAV 24 ビット 48 kHz	14 ch 2 ch	0 時間 35 分 1 時間 10 分 4 時間 07 分 8 時間 15 分

- 上記録音時間は連続録音時間ではなく、SD/SDHC/SDXC カードに録音できる合計時間です。

Bluetooth

出力クラス	: Class 2 (見通し通信距離: 約 10m*)
対応プロファイル	: A2DP
対応 A2DP コーデック	: SBC、AAC
対応 A2DP コンテンツ保護	: SCMS-T

* 通信距離は目安です。周囲の環境や電波状況により通信距離は変わる場合があります。

動作条件

最新の対応 OS 状況については、TASCAM のウェブサイト (<https://tascam.jp/jp/>) をご確認ください。

各 OS での動作確認は、下記のシステム条件を満たす標準的な環境での結果になります。

下記の条件を満たす環境であっても、全ての動作を保証するものではありません。

Windows

対応 OS

Windows 10 64 bit

対応パソコン

USB 2.0 以上を装備した Windows 対応パソコン

* 当社製ドライバー使用時 ARM64 CPU は動作保証外

Mac

対応 OS

macOS Big Sur (11)

macOS Catalina (10.15)

対応パソコン

USB 2.0 以上を装備した Mac

iOS/iPadOS デバイス

iOS 14 / iPadOS 14

iOS 13 / iPadOS 13

Android デバイス

Android 11

Android 10

* 互換性があることを確認していますが、全ての端末での動作を保証するものではありません。

一般

電源

専用 AC アダプター (PS-P1220E NUT)、DC 12 V

消費電力

12.5 W (最大時)

質量

2.55 kg

動作温度

0 ~ 40°C

外形寸法

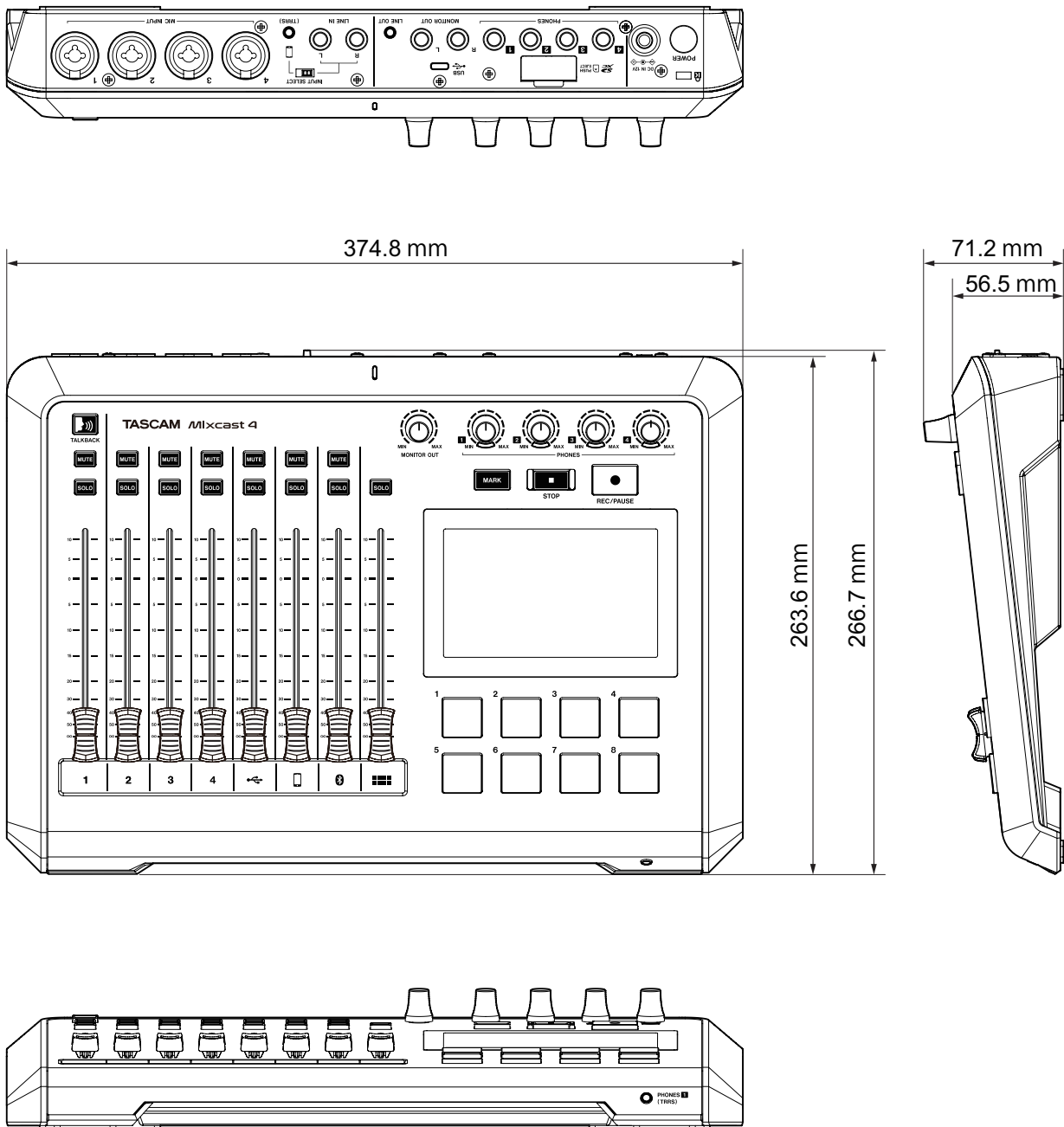
374.8 x 56.5 x 263.6 mm

(幅 x 高さ x 奥行き、突起物を含まず)

374.8 x 71.2 x 266.7 mm

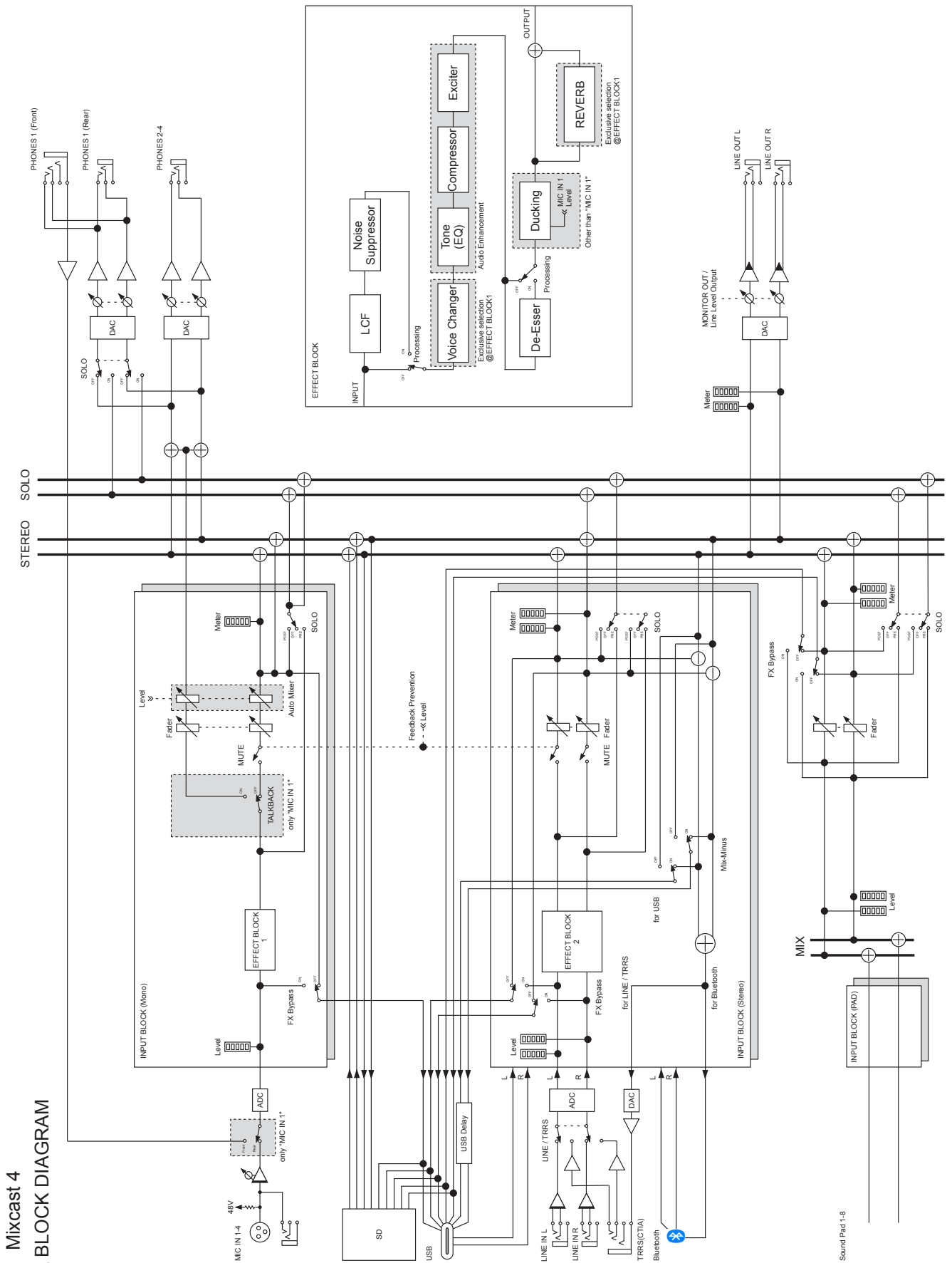
(幅 x 高さ x 奥行き、突起物を含む)

寸法図



- 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。
- 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。

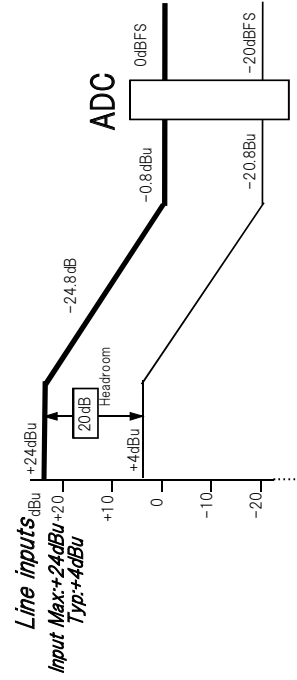
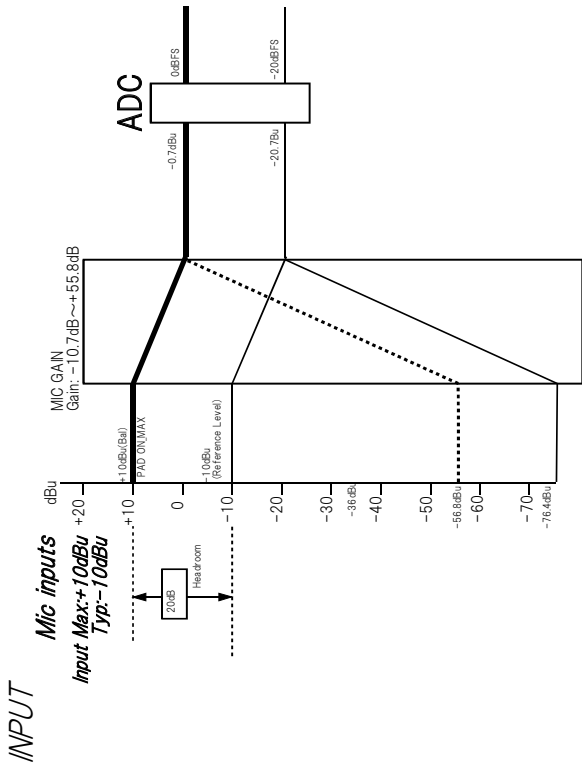
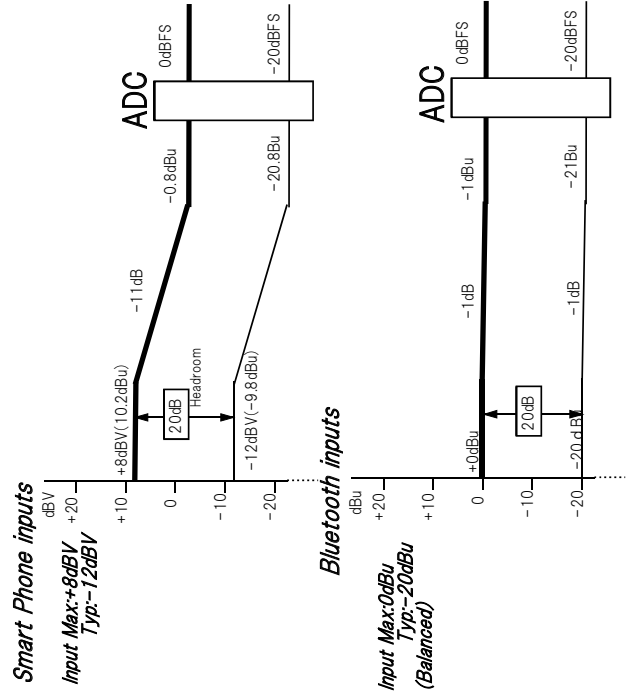
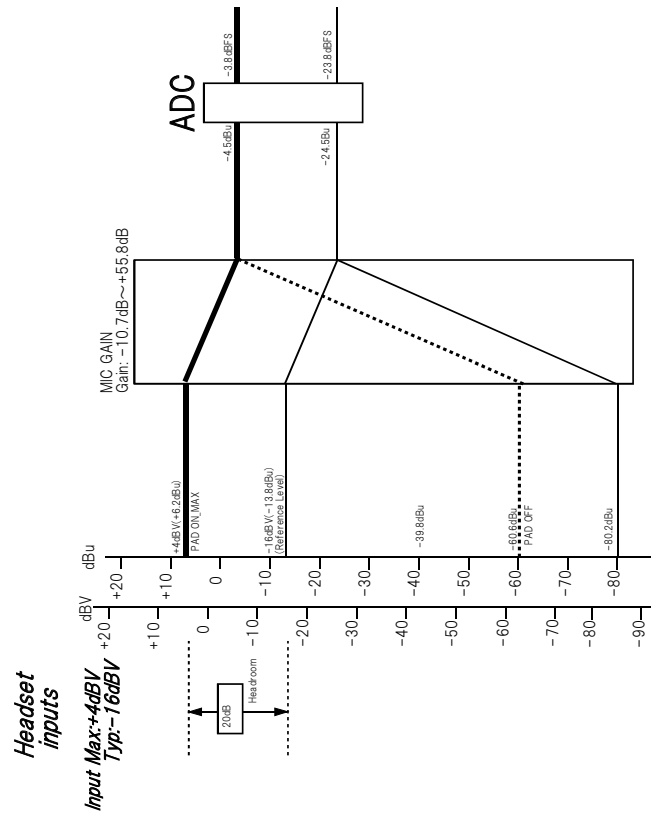
ブロックダイアグラム



Mixcast 4
MIXER BLOCK DIAGRAM

Sound Pad 1-8

レベルダイアグラム

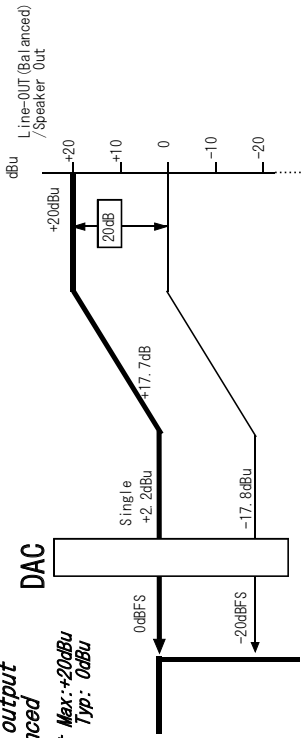


Mixcast4 Level Diagram

OUTPUT

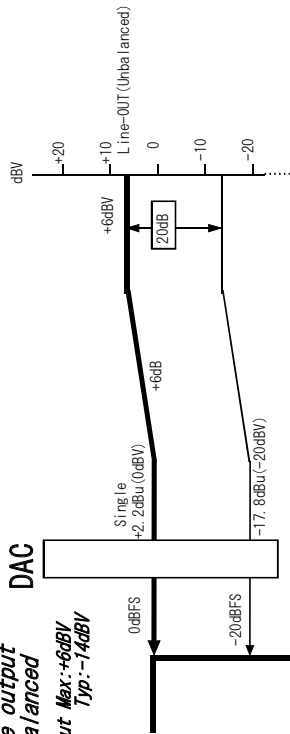
Line output
Balanced

Output Max: +20dBu
Typ: 0dBu

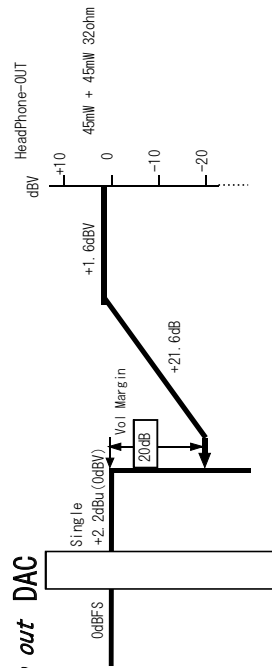


Line output
Unbalanced

Output Max: +6dBV
Typ: -14dBV

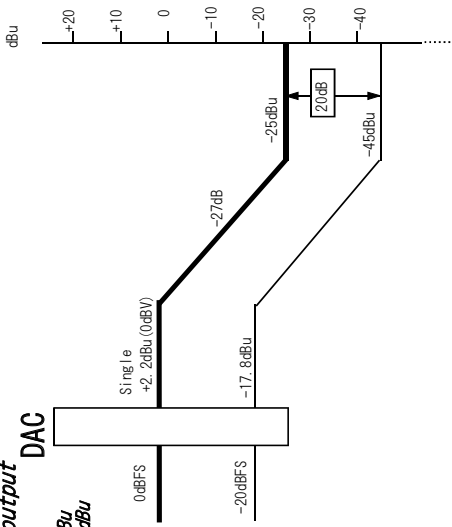


Head Phone out
DAC



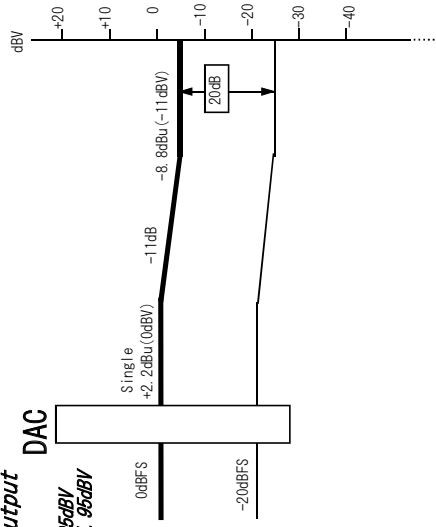
SmartPhone output
DAC

Input Max: -25dBu
Typ: -45dBu



Bluetooth output
DAC

Input Max: -4.95dBV
Typ: -24.95dBV



Mixcast4 Level Diagram

ティアック株式会社 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

● 電話 **042-356-9137** 携帯電話・PHS・IP電話から

● ナビダイヤル  **0570-000-809** 一般電話から

● FAX **042-356-9185**

受付時間は、10:00～12:00 / 13:00～17:00 です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858

● 電話 **04-2901-1033** 携帯電話・PHS・IP電話から

● ナビダイヤル  **0570-000-501** 一般電話から

● FAX **04-2901-1036**

受付時間は、9:30～17:00です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。